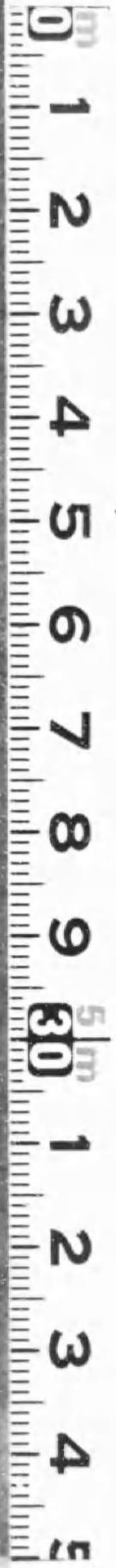
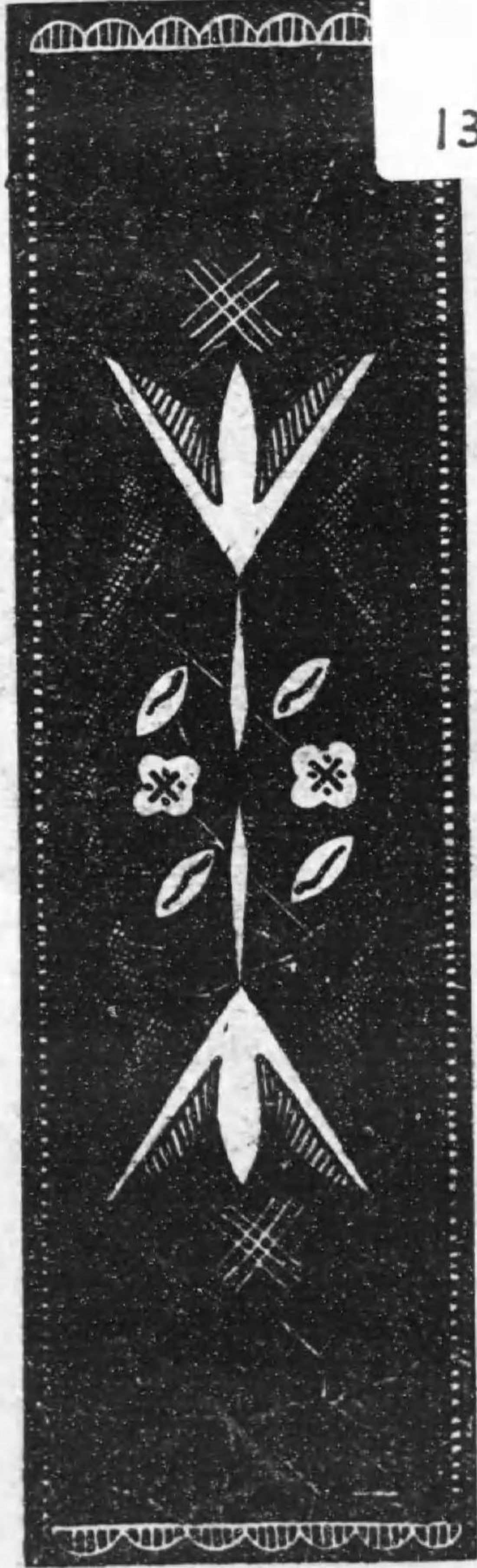


564

特220

130

妊娠調節相談
全



始



特 220
130



妊娠調節研究所編

調節相談
全

東京興風書院藏版



妊娠調節相談目次

- ◎産児制限の必要な譯……………一
- ◎妊娠調節は墮胎にあらず……………二
- ◎欲しくない子供は造らぬこと……………四
- ◎産児制限は決して殺見ではない……………六

妊娠調節問答いろく

- ◎女子になぜ月経が始まるか……………九
- ◎受胎とは、どんなことか……………一〇
- ◎どんな場合が受胎し易いか……………一〇
- ◎男女の生殖線とは何か……………一三
- ◎男女の两性はどうして出来るか……………一三
- ◎不感症無毛症は子寶が得られるか……………一六
- ◎月経と妊娠との關係は……………一八

- ◎結婚生活に子の出来ぬ場合の譯……………一九
- ◎妊娠日は月経の前か後か……………二〇
- ◎受胎可能の日は幾日か……………二〇
- ◎五月はなぜ妊娠が多いか……………二四
- ◎夫婦の血性と妊娠の關係……………二六
- ◎結婚後何ヶ月目に妊娠が多いか……………二七
- ◎授乳期間中は妊娠しないか……………二八
- ◎肥滿せる婦人は妊娠せぬか……………二九
- ◎心の持方が妊娠に影響するか……………三〇
- ◎圓滿な家庭になぜ子が少いか……………三〇
- ◎貧乏人の子澤山は何故か……………三三
- ◎姦通強姦などに受胎率の多い譯……………三二
- ◎流産の次はなぜ妊娠が早い……………三三

- ◎寒國に男子の多く生れる事實……………三三
- ◎出産日を正確に豫知する方法……………三四
- ◎同じ母親から何ゆゑ美醜の姉妹が生れるか……………三五
- ◎弱き妻が妊娠した時いかなる程度で處置すべきか……………三七
- ◎避妊法とは如何にすることか……………三八
- ◎避妊すれば人體に害があるか……………四〇
- ◎墮胎と避妊とは如何に違ふか……………四一
- ◎避妊には如何なる危険を伴ふか……………四二
- ◎妊娠調節に必要な豫備智識……………四三
- ◎器具による妊娠調節法の説明……………四四
- ◎女子用の器具及びその方法……………四六
- ◎藥物應用の妊娠調節法説明……………四九

- ◎器具も藥物も用ひない避妊法……………五三
- ◎季節を應用する禁慾の方法……………五四
- ◎特殊なる避妊方法の説明……………五五
- ◎絶對確實なる妊娠調節方法……………五五
- ◎手術による妊娠調節法……………五九
- ◎理想的に避妊に成功する方法……………六〇
- ◎避妊法を實行せねばならぬ場合……………六二
- ◎結核患者と妊娠調節……………六四
- ◎強姦によつて妊娠させられた場合如何にすべきか……………六五
- ◎食物による妊娠調節法……………六九
- ◎妊娠の事實を最も早く知る方法……………七一
- ◎律義者の子澤山は何故か……………七三
- ◎妊娠調節に失敗し易い場合……………七五

妊娠調節相談

妊娠調節研究所

産児制限の必要な譯

産児制限は、かういふ場合なら差しつかへないと、世人一般が認めてゐる點の第一は、母體が分娩に耐え得られない虚弱者である時。第二は癩病などの悪質の遺傳がある場合、第三には二人も三人も續いて不具の子供を産むやうな場合には立派に産児制限ができます。これを押しひろめて考へて見ると、人間社會のお互ひの不幸を、いかに取り除くべきか、その原因と救済法を研究するのが社會問題でありませんが、その不幸とは何であらうか、人間共有の大きな不幸といへば貧乏より外にはありません。この貧乏といふ土臺のもとに産児制限を考へますと、貧

- ◎ 妊娠調節法の効果如何……………七六
- ◎ 避妊の弊害に關する注意いろ／＼……………七九
- ◎ 妊娠調節の器具、藥品、方法を撰撰する場合の注意……………八〇
- ◎ 避妊墮胎は斯うして欺かれる……………八二
- ◎ 妊娠調節相談所の營業内幕談……………八四

妊娠調節の成功談失敗談いろ／＼

- ◎ 授乳期説を過信して失敗……………八六
- ◎ 注意深く×××××を用ひて成功……………八八
- ◎ 自分の妊娠日を避けて成功……………八九
- ◎ 何の効も無かつた避妊薬の失敗……………九一
- ◎ 藥品と××法を用ひて成功……………九三
- ◎ 一應は効果のあつた××法で失敗……………九三

- ◎ ××法を用ひて兎もかく成功……………九四
- ◎ ××本位の××流調節法で成功……………九六
- ◎ ××方法で局部を害した話……………九七
- ◎ ××が無駄骨に終つた經驗談……………九九

男の子、女の子を望み通り産む方法

- ◎ 夫婦の××によつて望み通り産む……………一〇三
- ◎ ××の時間を見計らつて男女を望み通り産む話……………一〇三
- ◎ ××後の日による××方法……………一〇六
- ◎ ××の原理を應用して自由に……………一〇九

目次・終

附記——。上記目録にある「××」の符合は本文には明白に分るやう記載す。

乏の主なる原因は人口の過剰であります。一軒の家としても、限られた収入で二人より三人、三人より四人と口数が増へれば増へるにしたがひ、その貧乏の度は深くなります。「貧乏者の子澤山」といふのは、たしかに一面の眞理を物語つてゐます。

母體が弱いから、悪質の遺傳があるからといふために、産兒制限が許されるならば、貧乏も社會の最も大きな難病であるから、母體の病氣であるのと同じ理由の下に、産兒制限が許されなければなりません。「この子捨てざれば我が身飢ゆ」この慘酷な光景に泣く人たちに對して、何等か制限の方法を講じないのは、不人情も甚しいことです。遅蒔ながら、日本の政治家も、漸くこの重大問題に幾分なりとも心を傾けるやうになつて來たのは、喜ぶべき現象であると存じます。

妊娠調節は墮胎にあらず

産兒制限といへば、直ちに墮胎のことに想到する人もありますが、産兒制限妊娠調節とは、文字通りに妊娠前の問題であります。妊娠後の墮胎が刑法上、人道上の問題であることは明瞭であります。年々百萬近い人口が増加してゆく日本の現状にあつて、産兒制限に關する研究が、いかに大きな役割を演ずるかは論ずるまでもありません。

東京市内には、一日か二日仕事がなくさへ直ちに家内子供の食事に差しつかへて公設質屋の門口を潜つたり、高利の金を借りなければならなくなる氣の毒な家族が、約二萬五六千もあつて、その家庭生活は家族の数が平均四人九歩、うち二人九歩は老人または子供で、家計を補足する労働能力なく他の二人の働きによつて、わづかに生計を維持してゐる現状で一ヶ月の平均収入は、僅々廿八圓餘といはれます。この貧弱な収入で、どうして人間らしい生活ができませんか。した

がつて、四疊半か六疊の光線もろくく入らない裏長屋の一室に、五人も六人も家族が暮さなければならなかつたり、三度の食事を二度にして、しかも一度は焼芋で間に合はすといふ悲惨なことが絶えず起つてゐます。このみじめな生計を脅かして、ますますドンドン底生活に導くものに、妊娠と出産とがあります。妊娠中は自由に働いて家政を支持することができない。出産後はますます経費が嵩む。さなきだに不足勝ちな収入をもつて、これらの乳幼児を完全に養育してゆくことは事實において無理な注文であります。不完全な養育は不健全な國民を造りあげることとなります。優秀な國民を得るためには妊娠の調節が必要であり、妊娠を適當に調節することによつて、健全な國民が得らるゝわけであります。

欲しくない子供は造らぬこと

東京市の當局者が、特にカード階級の細民だけに貧乏人の子澤山を救ふために

安上りにして確實な避妊法を傳授する産調相談所を設けたといふので、いよゝゝ開業といふところまで漕ぎつけたときに横鎗が入り、お流れになつたさうです。大阪では、警察當局が煩くて、貧乏を原因とする避妊は危険思想(?)だといふので、母體保護の立場から、たとへば母親が病身だとか、子供を生みすぎて弱つたとかいふときに限つてだけ、許すといふ條件つきの産調相談所が認可されてゐるといふことです。とにかく自分の好きな時に、子供を生む必要はない筈です。経済的にも精神的にも今生んでは困るといふ時、無理な出産をしないで済む方法が妊娠調節であります。また歓迎されざる出生は子供にとつても不幸であり、その不幸な子供の母親は一層不幸であります。それゆへ出来るだけよい方法、確實な方法を見出してゆき、子供の出生から生育にかけての遠い慮りを、つねに忘れず、ほんたうによい母として、良い子を生むために、妊娠する機会と度数を

意志的に調節する必要があります。然るに今や何といふ多産！従つて何といふ死産！わが日本は涙で誇るべき世界一乳幼児死亡の最高率國だといはれます。子供を愛する故に母性を擁護することが必要で、その第一案としては産むべき子供の数を調節することが必要であります。

産兒制限は決して殺兒ではない

近時最も憂慮すべき問題の一つは、貧困による犯罪の激増であります。その原因は、飢餓線上を浮き沈みしてゐる准失業によるものが大部分であり、しかも、その失業、准失業は、今日の資本家制、経済組織の當然の結果として生ずるものであります。

これらの犯罪を種別するとき、そこに多くの墮胎罪や貫兒殺しを見出すので、墮胎の件数は、年々増加しつゝあります。

わが國では現行刑法第二百十二條より二百十六條にいたる峻嚴な規定をもつて墮胎を嚴禁してゐるにかゝはず、あへてこの罪を犯す人々並びにその犯罪の動機を考へますと、その被告人の大部分は、生活の重荷に疲れきつた職業婦人や農婦たちで、妊娠や育兒による生命の脅威を知るからであります。産兒制限の必要は、既に遠い昔から人類によつて感ぜられてゐたところであり、今日においてその必要がますます痛切になつてきました。妊娠によつて母親の生命を危険に陥れたり、その健康を害したり、或ひは生れおちるとすぐに母親のつとめの妨げとなるため、棄兒となり、人手に渡され、一生を不幸と絶望の裡に暮らし「生れざりせば」の嘆きをする人の多い現状を見ると、これが解決は先覺者の一大責務であると思はれます。産兒の制限は、殺兒や墮胎のごとく生命を害するのではない、生命をつくるのを避けるにすぎないのであります。何らの殘忍性をも伴ふ

ものではありません。然るに、どうして、單に生命の創造をさける産兒制限が法律上、道徳上の問題となり、うるでありませうか？ それは、墮胎にたいして峻烈な法規と刑罰をもつてする政府が、産兒制限を個人關係のものとして、寛大な、黙認の態度をとつてゐるだけでも充分わかります。

妊娠調節問答いろく

【問】 女子が十四五になると、なぜ月經が始まるのでせうか。

【答】 月經開始は身體の中に成熟した卵子が出来ることを先行條件と致します。そのまた卵子が成熟するのには、ほかの幾つかの内分泌腺が調子よく發育するところが先決條件になります。内分泌腺が調子よく發育すれば、一面には女性としての性情が完成される結果になるのであります。ですから性的には成熟しない處女でも、卵子の側の状況では月經が起ります、しかし性的の成熟は自然、卵子の成熟を早めますから、性的早熟の婦人は早くから月經を見ることになります。この月經の初まる時期は、日本婦人の平均年齢は十四年八九ヶ月であります。月經はたゞ無意味にあるのではなく、受精した卵子が到着して着床するための準備であ

ります。しかるに、受精卵が到着しないときは、卵が来ても、受精卵が素通りして着床しませんから、折角の準備も無駄になつて、その充血して居た血液が、子宮内膜の表面から子宮腔内に出て、それが子宮口から腔を通つて外に流れ出るのであります。これが即ち月経の出血であります。

【問】 受精とは全體どんなことでせうか、そして、どんな場合が一番受精しやすいのでせうか。

【答】 受精といふ現象は、卵巣から飛び出した卵が、普通輸卵管の中で、精蟲と出會つて初めて起るものであります。卵巣から卵が出る時期は大體、月経と月経との中間期、更に精しくいへば、次に來るであらうと想像される月経豫定日の前十二日乃至十六日であることが一般に認められてゐます。月経は個人的に少しづつ、差異のあるもので健康の人でも、或る人は常に廿八日目、或る人は卅二日目に

來るといふ風に違つてゐます。排卵期を豫定月経前幾日と勘定したのは、かういふ風に月経周期が、違つてゐても、計算できるやうにした爲めであつて、これを月経後幾日と計算すると、誤差を生じて來ます。大體、排卵期は、月経と月経との中間期と考へる他ありません。排卵される卵は、卵巣を出てから、腹腔に開いてゐる輸卵管の口から吸ひこまれ、子宮腔に向つて送り出されます。この輸卵管にをるうちに普通、精蟲に出會へば、受精するのですが、出會はなければ子宮腔に出て、月経となつて體外に排泄されます。それで受精すべき期間は、極限せられた範囲内にあることになりませんが、これが行爲の時と、いかなる關係にあるかといふことになる、甚だ複雑になります。即ち、この場合は、更にもう一つの因子たる精蟲のことを考へなければなりません。精蟲は××後、輸卵管目がけて彼れ自身に取つては相當長い道中を旅行しますが、絶え間なき自己の運動をもつ

て、何等障害がなければ、少くとも廿四時間より卅六時間後には、輸卵管の卵巢に近い部分に到達します。ここに注意すべきは、精虫は、卵と違つて、相當の長い期間、生存し得るものであることは、月経前、若しくは月経中でも妊娠し得る事實から考へ得られます。即ち、いかなる時期の行爲も受胎し得るもので、ただ妊娠し易い時と、しにくい時とがあるといふ結論になります。歐洲大戦當時、戦士の家庭の統計によつて、從來あつたよりも割合に信を置くに足る統計的觀察がなされました。それは受胎率の最大な日は、月経前十三日乃至十七日であつて、この時は五十三パーセント、即ちこの時期には約半数は妊娠してゐます。月経前になると、急に減り、わづかに三パーセントに過ぎないのであります。簡単にいへば、月経後一週間乃至十日が、最も妊娠し易い時であるが、それ以外の日といへども、いづれの日も妊娠しないといふ日はないといふのが至當でありませう。

【問】 男女兩性の生殖腺とは、いかなることとせうか、また男女の兩性は、どうして出来るのでせうか。

【答】 人類が発生する最初に於いては雌雄兩性の生殖細胞が合するものですが、雌性生殖細胞は女子の卵巢より排出される卵子で、雄性生殖細胞は男子の睪丸より排出される精蟲であります。精蟲は思春期に達した男子の生殖腺、即ち睪丸より排出されるもので、精液の中に無數に存在してゐます。精液は精囊、攝護腺、コーペル氏腺等により排泄される液と、この精蟲から成れるもので、健康なる男子の一回の射出液中には五億の精蟲が生存してゐます。外形は恰もおたまじやくしの如き容姿を呈し、頭部と頸部と尾部との三部から成り、精蟲は射出せられるとその尾を振つて勢ひ盛んに前進運動を行います。精蟲は弱アルカリ性の液の中に置けば、比較的永いあひだ生存しますが、酸性なる液中では早く死滅します。

人類の腔中は酸性であるから十二時間位しか生存できません。しかし子宮や喇叭管の中では弱アルカリ性であるから、三日間くらは卵を受精させる能力を保つが、それよりも永くなれば死滅します。人類の精蟲は二日乃至三日しか受精能力がありません。精液の中に含まれて射出せられたる精蟲は、盛んにその尾を振つて上行します。次に卵子は、女子生殖腺なる卵巣より生ずるもので、球状體の中に胚胞といふ核があります。卵子は卵巣より廿八日目毎に一個づつ排出せられるもので、これを排卵作用と申します。この作用は女子十四五歳すなはち思春期に始まるもので、それより約卅年間、女子が四十五六歳に達して月經が熄むまで繼續します。この排卵作用が現はれると、月經も亦た伴ひ現はれるので、排卵作用が熄めば月經も閉止するわけです。卵巣から排出せられた卵子は直ちに喇叭管に入り、そこで己に待つてゐる精蟲と相合體するが、若し精蟲がまだ到着してゐな

い場合には精蟲の來るのを待つて結合する。これが受精作用であります。人間が男兒として生れたり、女子として生れたりするには三つの説があります。第一は卵子、精子が受精前に男女別を決定する物質が具はつてゐるといふ説、第二は兩性が生殖細胞と相融合する時に決定するといふ説、第三は受精後胎兒として發育してゆく途中に男女性が決定するといふ説であります。一體受精作用が行はれるときには、そのすぐ前に、男女兩性の生殖細胞即ち卵子と精蟲とが各々その體(核)を二分するもので、この卵子の半分と精蟲の半分とが相合體して一個の人間となるのです。レニツの研究によれば、精蟲が半分に分體する時には、性を定むべき遺傳物質が一半だけに與へられ他の一半には與へられぬ、従つて性決定の遺傳物質を具有する一半が受精すれば男子となり、これを具有せぬ他の一半が受精すれば、女子を生ずることになりますのであります。

【問】 不感症や無毛症の人は子寶を得ることが出来ないでせうか。

【答】 不感症とは婦人が頗る不満足な現象をいふのです、その第一の原因は、精神的半陰陽、或ひは精神的小兒性といふ精神變徵であつて、初めのものは男性々格を多分に持ち合せて、性的交渉に無關心なのであり。後のものは小兒性情が持續するもので、異性に對して親か兄弟かのやうな感情しか持てないものです。その他の原因として、同性愛に耽溺してゐて異性には愛情の起らぬもの、或ひは惡癖を好んで、異性愛を怖るゝもので、これらの婦人は相應の年齢に達しても、異性に對する愛着量が甚だ微弱であります。第二の原因は、機質的變化であります。人體において、或る部分の發育不充分によるので、それが婦人生殖器系統卵巢、子宮、膣部にあるか、或ひは膣粘膜の肥厚せるもの、又は處女膜の強靱なる場合には、神經機能に異常を呈し、それが不感症或ひは疼痛症を起すのであり

ます。故に不感症は、他の全身性疾患を考慮しなければなりません、なほ膣瘻瘻瘻症は不感症以上の痛苦であり、これがために一家の和合は破れ、離婚の不幸を見ることがあります。神秘なる夫婦間のことは輕々に口にすべきではありませんが大なる變調あらば、早く醫家に相談されるがよろしい。第三の原因は、環境であります。女性は、男性に比して一般に性格が受働的であります、しかしその人の運命で、或ひは一家の重責とか、精神過勞の職務とかの場合に不感症を起すことがあり。疲勞や睡眠不足、濕冷などによつても一時的の不感症を起すことがあります。

第二に無毛の場合には、皮膚局部の發毛機關の萎縮によることが多いのであります。發育不全を原因としない不感症や先天的の無毛症は、何等妊娠との關係はありません。

【問】 月經と妊娠とは、どんな関係がありますか。

【答】 妊娠は、稀には月經と關係なしに起ることもありますが一般には妊娠と月經とは、密接な關係があります。妊娠は卵巢より排出される、卵の受胎によつて起るもので、卵巢は一種の内分泌を營み、この内分泌物が直接、卵巢に働いて排卵作用を起し間接に血管神經に働いて月經を起すのであります。排卵作用は、月經なくとも、營まれますが一般には妊娠は月經のある人に起るものです。分娩後まだ來潮を見ぬ間に妊娠し、または月經の缺けがちな人が、三四ヶ月も續いて缺けてゐるあひだに懐妊する例もあります。それで種々の型の月經と、妊娠との關係は他に異常がなければ、最も好調に、妊娠し得べく、成熟期に達して一度も月經のないのは、子宮或ひは膈孔の閉鎖によるか、卵巢發育不全によるものであります。卵巢が全く萎縮してゐなければ、無月經の場合にも、妊娠せぬとは限りませ

ん。月經の過少、或ひは月經と次の月經との間隔の甚しく永いのは、卵巢發育の不全を現はし、妊娠には縁遠いことになります。月經過多、或ひは甚だ進みがちな月經は、卵巢機能の亢進、又は不全のため妊娠はしにくい。月經痛を伴ふ子宮は機械的、或ひは炎衝性變化を自體、或ひは附屬器に有するもので、これまた妊娠は仕にくいのであります。

【問】 結婚してから五年になりますが、未だに子どもが生まれません、主人も私も弱くないのに、どうして出来ないのでしょうか。

【答】 妊娠が雌雄生殖素の合體によつて成立する以上、卵および精子の合體を碍ぐる原因が、男女の一方どちらにあつても妊娠しません。妊娠障碍の原因が男子にある例は多く、最も普通なるは、淋毒のために精子(精蟲)の出路が塞がり、精液内に精子の存在せぬ場合その他に結核、微毒、癩によつて精子の出なくなる

こともあり酒精、ニコチンなどの中毒、ラヂウム・レントゲン線の作用、チブス、猩紅熱、肺炎、耳下腺炎、脳膜炎などが睪丸、副睪丸に轉移して精子のなくなることもあります。それで男子の方に何か前に疾つた病氣が原因してゐないかを検査する必要があります。また男子に酒精、阿片、鉛などの中毒、糖尿病、肥胖病、神経衰弱、脊髄癆などの病氣があつて性能不十分となる場合も妊娠はむづかしいわけです。婦人の場合は、これ以上に多くの場合があります。まづ外陰部よりするならば、陰阜および下腹部の脂肪の異常なる肥厚、或ひは大陰唇の發育わるく、又は陰毛發生の極めて稀薄なるは、生殖器發育不全症に伴ふことが多い。會陰部の前回の分娩、または外傷による破裂創は、不妊の原因となります。處女膜の閉鎖せる人は、輕血が流出することができずに腔および子宮腔に貯留すれば、その二次的變化として輸卵管孔の癒着や、卵巢血腫、骨盤内腹膜癒着などを起すことが

あつて、閉鎖せる處女膜を切開して後も、これら後遺症のため受胎が困難になります。先天的に腔が全く、或ひは一部だけよりない人は、子宮も全く缺けてゐるか、痕跡だけの場合が多い。急性傳染病、外傷、火傷などで腔壁が癒着して、腔が閉鎖せる場合も、子宮および輸卵管に變化を起すは、處女膜閉鎖の時に同じ。腔腔が非常に狭かつたり、短かつたり、また子宮孔の前後淺くなつてゐる人の子宮は、發育不全で妊娠に縁遠いことになります。子宮筋腫も不妊に關係はありますが、筋腫子宮が必ず妊娠せぬわけではなく、その發生せる場所により、またその大きさにより、とき／＼妊娠する筋腫子宮もあります。内膜炎は妊娠しても流産を起しやすい。輸卵管は、妊娠に對しては最も重要な部分で、その變化の程度によつては、絶対に妊娠のできぬ種類もあります。以前に盲腸炎、或ひは腹膜炎を疾つた人に妊娠できぬ人あるは、卵巢の表面、或ひは輸卵管開口部に變化

を残すからで開腹輸卵管端整形により、妊娠を望み得ます。この他に甲状腺、胸腺、脳下垂體および卵巢その他の内分泌腺の機能不均等なる場合にも、妊娠ができなくなるのであります。

〔問〕 妊娠日は次の月経前にあるものですか、それとも月経後にあるものですか。受胎可能の日は幾日ぐらゐあるものですか。

〔答〕 妊娠は、健全な女性の卵子と男性の精子とが、喇叭管内で結合することによってありますけれども、女性の卵子は、その排出される時期すなはち排卵期が確定してをりますので、その排卵時でなければ妊娠は成立しないのであります。その排卵期はいつであるかを説明しなければなりません。排卵作用と月経との間には密接な関係があります。いかなる時期に排卵作用が行はれるか、すなはち如何なる時期に、妊娠成立が可能であるかといふに排卵作用は、次の豫定月経前の十二

日から、十六日前までの五日間に限られます。そして、この排卵作用は、その人の月経周期と同様の周期（平均廿八日）をもつて、妊娠時を除いて月経初潮の頃より月経閉止期（更年期）まで三十年乃至卅二三年間、持続して繰返されます。この排卵時に排出される卵子は、その周期毎に、通常たゞ一箇に限られてゐるのです。この卵子の生活力すなはち壽命はごく短く、長くともせいゝ一日ぐらゐであります。また、男性の精子の生活力も三日を出でないのであります。そこで妊娠成立可能の時期は、次に來潮する豫定月経の十二日前から十六日前までの五日間に精子生活の三日間を加へた都合八日間、すなはち次の豫定月経前十二日から十九日前までの間は、受胎可能の期間であります。それ以外の期間、すなはち豫定月経前十一日以後、及び豫定月経前二十日以前においては妊娠は不可能といふことになりす。今これを實際の例にとりますと、假りに廿八日目毎に月経の來

潮する婦人があつて十月一日から月經出血があつたとします。この婦人の次の豫定月經のある日は、十月廿九日、排卵期はその十二日前から十六日前まで、すなはち十月十三日から十月十七日の五日間で、妊娠可能な期間は、それに前三日間を加へた八日間で十月十日から十月十七日までであります。したがつて十月九日以後には妊娠がないのであります。この原理を應用すると、各自の妊娠可能日を計算することができます。

【問】 五月はなぜ妊娠が多いのでせうか。

【答】 出産の統計に照し合せて見ますと一年を通じて一二月の候が一番分娩が多いのであります。これを逆に計算して見ると、これらは四五月の候に受胎したことになるのであります。醫學上これは、どういふ根拠があるかといふに、私ども人間は生理的に、いつでも妊娠し得る状態におかれてゐます。ところが人間以外の高等動

物は交尾期が一定してゐます。牛などは三週間毎に交尾期が反覆されます。これらの點から推し考へて見ると、原始人は、やはり交尾期があつたかとも想像されます。それで人間の性本能も本質的には、季節に應じて強弱があります。婦人の性本能が、期節によつて、いかに動搖するかといふに、婦人の生活現象は、月經を境として、潮の干満のやうに變動し、性本能も、ほゞこれと並行して強弱が現はれます。一年を通じて、その季節によつて、高調期があるかと考へられます。そして月經は氣候に密接な關係があります。熱帯地方の土人は八九歳にして月經を見、寒帯地方の婦人の初潮期は十八九歳といはれます。四五月は長い冬眠から覺めて千木萬草の萌え出る期節であり、花咲き鳥謳ふといふ一切生物が生を復活される時期であるから、この季節は人間の心も四季を通じて最も輕快な開放された氣持になるのであります。したがつて女性の生活現象もこの時期は最も順調に

進んで行くのであつて、受胎率の多いのも故なきことではありません。今一つは日本の習慣として十、十一月の候が最も結婚が多い。結婚後直ちに妊娠した例も少くないが、結婚後數ヶ月後の方が統計の示すところでは多いのであります。それは結婚當時は性生活も不慣であるが、數ヶ月の後には、夫婦の親和の程度を増して琴瑟相和すの域に入つて来る、それが四五月の候に現れて来るといふ結果になります。

【問】 夫婦の血性が合はねば妊娠せぬものでせうか。

【答】 妊娠はつねに、その夫との相對關係にあるので、夫婦ともに完全に健康だとして、たゞお互の血の性質が合はないために妊娠ができないことは確かに、あり得ると思はれます。人々の血の性質には色々あります。たとへば、或る夫の血精は、その妻の血球を溶かす、また妻の血精は夫の血球を溶かすといふ事實があ

ります。但しこの溶血作用たゞ一つだけで、妊娠との關係を定めるわけにはゆきませぬが、推論上、妊娠に都合のよい夫婦間相互の血の性質、またその反對に都合の悪い方があり得べきことだといひ得ます。

【問】 結婚後何ヶ月ぐらゐが一番妊娠が多いものでせうか。

【答】 近來は友愛結婚などが稱へられてゐますが、妊娠は、生理的のものであるから、結婚すれば必ず妊娠するものと思つてよろしい。夫婦とも健康であり、しかもその夫婦生活が健全であれば結婚後、數ヶ月を出でずして妊娠するものであります。外國の統計によつて見ても、初産は結婚一年三ヶ月以内に子供の宿つたもの最も多く、三五・五パーセントの率を示してをり、年が経つにしたがつて急に減り、結婚後三年以上を経て初産するものは僅かに二・六パーセントに過ぎないのであります。不妊の罪は、その一半は男子が負ふべきで、健康な夫婦が不妊

であつたり、數年後に妊娠するのは、その性的生活が不規則であるためと思はれます。過度の交りは却つて受胎を妨害するものであります。

【問】授乳期間は妊娠をしないといふが、それは、ほんたうでせうか。

【答】授乳期間は分娩後十ヶ月から十八ヶ月ぐらゐの間であるが、この間にいくらかも月経は來潮し、それは何等異常でないから、妊娠することもあり得ます。ただし、授乳期間中は比較的妊娠率の少ないのは事實です。妊娠するか、どうかは排卵機能があるか、どうかによつてきまるのであります。排卵機能とは卵巢から成熟卵が排出されることであつて、この卵が受精して、子宮の粘膜に附着して、はじめて妊娠が成立するのです。その排卵機能は授乳期間と否にかゝはらず、分娩後直ちに起つて來ます。授乳してゐて、一ヶ年間も月経のない婦人にも、排卵機能は毎月行はれてゐます。月経のある時は必ず排卵機能が行はれてゐます。

れど、排卵機能の行はれてゐる時には、必ず月経が來潮するとは限らないのであります。授乳してゐる婦人が、月経を見ぬから排卵機能も行はれてをらぬと思つてゐるうちに、よく次の妊娠をするのは、これがためであります。授乳期間中には妊娠しないと世間にはされてゐるのは絶対的のものではなく、たゞ妊娠率が少ないことは事實であります。

【問】肥満してゐる婦人は妊娠しないといふことは本とうでせうか。

【答】女は一般に脂肪層が厚いため豊満な女性美を發揮し、美しさと親しみを與へます。しかし脂肪の均衡が破れ、肥満状態に變りやすい傾向があります。これら肥満せる婦人は、妊娠しにくい傾向があることはたしかであります。これら肥満せる婦人に、子宮發育不全の人が比較的多いやうであります。この子宮の發育不全は卵巢の働きの不全から來たるので、かゝる婦人は一般に月経が少いか、全

く見ない場合もあり、更に肥満するにしたがつて、月經の量が減少する状態を呈します。これを性的方面から見ても肥満せる婦人は、性に恬淡で、往々不感症を訴ふる婦人もあります。一般に肥満せる婦人は、卵巣「ホルモン」の不全による場合多いため、妊娠の可能性が少い結果になります。要するに、肥満せる婦人が一般に妊娠し難いのは事實で、この理由として卵巣、甲状腺、脳下垂體「ホルモン」などの相互關係の不均衡を挙げねばなりません。これに對しては各種「ホルモン」製劑を適時補給することにより、肥満ならびにこれによる不妊を治療することが出来るのであります。

〔問〕 妊娠には心の持方が影響するやうに考へられますが、それとも、全く關係はないものでせうか。また圓滿な家庭には、子供が少くて、いつも夫婦喧嘩の絶間のない貧乏の家庭には割合、子供が多いやうです。更に姦通強姦などに比較的

受胎率が多いとのことですが、事實そんなことがあるものでせうか。

〔答〕 身體の状況からいへば、豫定の月經開始前二三日と月經終止日の後十日間くらゐが、最も受胎に好適なわけですが、その間でも婦人側が對者に愛情を感じること、これに加へてそのころ愛情が高潮すること、次では、社會的經濟的家庭的状況が、妊娠を沮まない性質のものであることが必要な條件でありませう。少し立入つて申せば、受胎には性愛性慾の關係以外に、いはゞ興味を加はるのではないかと考へます。そしてこれには抑制因子と名づけるものが拮抗的に始終働くやうです。抑制因子は世間への體裁とか、多産發育の懸念とか、意識的原因から成立つにしても、抑制因子が除かれ、夫婦生活の高潮するのは全くその瞬間のはじめで意識的には、どうにもならないやうです。これが精子が卵子へ到達するのを、容易にするらしく思はれます。媾合、姦通などで受孕率が割合に高いとす

れば、これらの場合の婦人側の困惑または興奮は、不随意に抑制因子を取除いて或る種の夫婦生活を高潮させた結果になるのではないでせうか。反対に如禱を望みながら、どうしても受孕しない婦人は、身體の状況に認むべき故障のない限り如禱を熱望するそのことが、意識下で、強い抑制因子を形作つてゐるとも考へられます。有徳な結婚生活を續けて永年妊娠しなかつた婦人が、たとへば爛醉した夫から、粗暴な扱ひを受けて、後に受孕したといふ場合がありとすれば、これまた粗暴な扱ひによつて、生來覺えなかつた夫婦生活が高潮した點で、説明できると思ひます。

【問】 流産すると、なぜ次の妊娠が早くあるものでせうか。

【答】 母性の大部分は分娩後、必ず授乳するものですが、授乳時には、その妊娠率は低下し母性の子宮體は萎縮状態を呈します。すなはち哺乳中は、その卵巣機能の停止と子宮の萎縮状態は、妊娠を困難ならしむるか、または妊娠を不可能ならしむるもので、これは分娩後、長期に亘つて、授乳を續行する婦人には比較的その妊娠が拒否せられるわけです。それは、實に巧妙なる自然の力ともいふべきで、神に感謝してよいのであります。これに反して、流産した婦人は、次回の妊娠が速かなるを普通とします。正常の健康體にして、その交歡が合理的に行はれる場合には、授乳中の妊娠率は低下し、授乳をやめるか、その回数が少くなる頃に妊娠は成立し、流産死産後には、その妊娠率は極めて増大するものであります。

【問】 寒暖により性別に差別がありませうか。

【答】 西洋では、二千年の昔に有名な哲學者ヒポクラテスは、兩親のうち、體質

の強いもの、性を遺傳するといはしました。中古のスタークウエザーはそれとは反對に、両親のうち弱い者の性が、生れ出る者の性を決定するといつてをります。たゞ氣候の寒暖が性別に關係あることは事實であります。我が國でも、東北地方の青森岩手兩縣は、女兒百名にたいして、男兒一〇七・八名の生産率を示してゐるのに、温暖の地方である九州の宮崎、鹿児島二縣は、女兒百名にたいし、男兒一〇二・七名の割合であり、寒い地方に男兒多く、暖かい地方に女の兒が多く生れる事實があります。

【問】 出産の豫定が豫め正確に判る方法がありませんか。

【答】 最終月經の第一日から起算して、約二百八十日目に分娩するものとみなされますが、この各月による計算法は困難なので、普通は最終月經の第一日より九ヶ月と七日目を、分娩豫定日と概算します。なほ一つの方法として、妊娠成立の

夫婦關係の日が判つてゐた場合には、その日に、單に太陽曆の九ヶ月を加へて、出産豫定日と計算する方法もあります。次には、胎兒が動き初めた日すなはち初めて胎動を感じた日に妊娠月の五ヶ月を加へて、豫定日とする方法もあります。この胎動初覺の日は、初産婦は經驗のないためにおそく、經産婦は經驗があるので、早く感ずるばかりでなく、その人によつて、よほど差のあるものであるから適中率は少ないのであります。

【問】 同じ母親から何ゆゑ美醜の姉妹が生れるのでせうか。

【答】 こゝにメンデルの法則といふものがあります。これによると、たとへば四人の姉妹があるとすれば、その中の一人は母に似、一人は父に、他の二人は父と母との兩方に似た點を備へてゐます。この方則は必ず父と母にのみ似るわけではなく隔世遺傳といふて祖父祖母に孫が似たり、曾祖父父母の顔だちに似た子供がで

さることもあります。この隔世遺傳も、複雑になつて來ると、次第に代を離れ、何代も何代も以前の親の容貌や氣質が、突然に遺傳となつて現はれる時もあります。兩親は何れも、全然別な血統に屬するものであり、またその上の兩親もさうなので、近親に顔立の似たのがないと思つても、その實、いつか自分たちの知らない遠い親達の遺傳が、その子に現はれたのかも知れません。西洋で或る白人夫婦の間に、黒人そつくりの子が生れ、訴訟事件にまでなつたが結局夫婦のどちらかの祖先に黒人があつて、何代も續くうちに、それを忘れてゐたに過ぎないといふことによつて、事件が解決されたことがあります。兩親が立派な顔をしてゐたからとて、その子供たちが揃つて好男美女であるとは、いひ得られない、姉が美人で妹が不美人だといふことも、何等の不審を挿しはさむ餘地はありません。要するに、兩親や祖父母が立派であつても、生れた兄弟姉妹が、兩親

や祖父母に似るとは限らないので、遺傳の法則にしたがつて、昔の大先祖の誰かに似たのかも知れません。近親結婚の嫌はれるのは、同様の血統の中から相似た缺點が誇張され、その子に現はれて來るからであります。

【問】 弱い體質の妻が妊娠した場合、如何なる程度で妊娠中絶が許されませうか。

【答】 妊娠を中絶させる必要の場合には結核、悪阻、心臓病、腎臓病、脚氣、萎黄病、悪性貧血などにて、そのまゝ妊娠をつゞければ、母體に危険を招くことが明らかなる場合には、人工的に妊娠中絶を施すことは法律に許されてゐます。また狹窄骨盤にて、臨月まで自然分娩を待つと危険を起すほどの難産が豫期される時は、人工的早産が以前にはよく行はれましたが、近來は手術が進歩し開腹によつて臨月に母子を救ふことが出來ます。しかし一般からいへば中絶術は、ことが重大です。同じ病氣でもよく／＼でなければこれを敢行しないが、避妊の方は

さほどでなくても萬全のために輕症のものにも、それを實行した方がよろしい。また中絶術の必要があるにかゝらず、優柔不斷にして實行を躊躇するときには、遂に母體の生命を見すゝ失ふこともありまから、その適否の境界を定むることが必要です。その他、糖尿病は元來、妊娠し難いものですが、妊娠中に糖尿病があれば、生命の危険が起るから避妊を講じ、糖尿病の妊娠は、これを中絶しなければなりません。梅毒患者は妊娠したらば、早速驅微法を施し、根治しない間は避妊するがよろしい。癩病も母の保健とは別の意味で、やはり子を作らぬがよいと思ひます。

〔問〕 避妊法とは一體どういふ理窟で、どのやうなことを行ふものですか。

〔答〕 避妊は醫學上いかなる原理に基いて實行されるのかといふに、妊娠は女子の卵巢で成熟した卵子が子宮腔へ降つてきた時、男性精子と合體して、受精作用

が完了する結果である、この兩者の邂逅を妨げさへすれば妊娠は起らないのですから、避妊は理論上から見れば至極簡單明瞭で、第一には、男女相接しなければ安全である。第二には、卵巢か翠丸か、いづれかが不健全であれば、それでもよい。病氣で不完全になつてもよいし、エツキス線などで、卵巢か翠丸を破壊してもよい。第三には、外科手術で、卵巢か翠丸を取つてしまふか、その輸送途中の管を閉鎖、乃至、離断してもよい。第四には、腔内に消毒薬品を入れておいて、精子を殺してしまつてもよい。第五には、腔内を洗滌して、精液を速かに洗ひ出すのも一法である。第六には、ゴムの道具をもつて精子の子宮内進入を防止するのである。子宮口にゴム帽を被せるとか、男子側にゴム袋を装置するとか、或ひは腔の中途にゴム膜を張つて直接の交渉を防ぐやうにする。そのほか卵子排泄期間中だけ性行爲を中止するとか、子宮口に避妊ピンを挿入する工夫もあるが、日

常の夫婦生活に何等の支障なしに、かつ確實に行はれる方法の撰擇が困難です。

【問】 避妊すれば人體に害がありませんか。

【答】 避妊そのものが男子からの細胞を腔内に直接に受け入れない、従つて受精しないからとて婦人の身體を害することはありませんが、精神的には不自然の感不滿、良心的慚愧などのために、精神的傷害を蒙ることは免れない。この場合、眞に産兒調節の理由原因が備はつてゐるならば、避妊そのものに不滿も慚愧もないわけで、たゞ調節的避妊は良き方法を選ばねばなりません。中絶法は脊髓の機能に傷害し末梢神經にも害を及ぼしますが婦人の方には、さういふことはまづありません。ただし一定の感覺に達することのできない關係がくりかへされると、不感症などの神経性症状が起ります。併しそれとても男子にをけるが如き觀面なものではありません。不良なる避妊法、たとへば避妊ピンとか針金や小さな栓

棒を子宮の内に挿入する方法などは、これによつて子宮が傷害せられますから、妊娠を欲する時期がきて、これを取り去つても、己に子宮が荒されてゐて妊娠に役立たぬやうになつてしまふことはあり得ます。強い藥液を用ふるとか、娼妓のやうに短時間の中に度々洗滌を繰り返すことも同様の結果となります。

【問】 墮胎と妊娠調節とは、どう違ふのでせうか。

【答】 妊娠調節と産兒制限とは、別に異つた意味はなく、避妊のみならず一旦妊娠したものを、醫師が一定の適應のもとに、妊娠中絶術を行ふものをも産兒制限または妊娠調節と解してよろしいでせう。墮胎は、一旦妊娠したものを人為的に中絶させる行爲であつて、醫師が正當なる適應のもとに行ふのを妊娠中絶術と稱し、それが妊娠七ヶ月以前ならば人工流産術といひ、八ヶ月以後ならば人工早産術と稱します。もし、それを正當なる適應なく行つたならば刑法上の墮胎の罪

に屬します。合法的に行ふものは、これを妊娠中絶術と稱し、刑法の文中に明記しある「墮胎」といふ犯罪行為と區別します。妊娠調節または産兒制限の行為は法に觸れませぬが、狹義の墮胎は刑法によつて罪を構成します。

【問】 妊娠調節には危険を伴ふものでせうか。

【答】 それは方法の如何によるので比較的無害で最も有効なのはコンドーム（ルデーサツク）の使用であつて、これは婦人には、危険がありません、男子は多少の不満はあるにしても危険ではありません。男子の機能からいへば、オランダ型護謨棒（ダツヂ・ベツサリー）がよろしい。男子の方を、おほうのでないからです。しかしこれは避妊の目的に對してはコンドームよりも不確實で、膣内挿入に一定の技巧を要します。産兒制限の手術的避妊法としては輸卵管と子宮との連絡を斷つので、これには腹壁を開いて行ふのと、また膣内から手術するのと二途ありま

すが、手術的方法是避妊に向つては確實であり、今日の婦人科手術法で危険はありません。種々な薬剤を膣内に入れおく方法は概して効果が少い無数の精蟲を壓殺するほどの強力な薬剤を用ひたならば、婦人の局處は害されてしまし、無害な薬なら、避妊に無効である筈です。膣洗滌法は事後、直ちに洗滌するのですがこれには護謨製のポンプ仕掛スポイト、イルリガートルを使用する等があります。素湯で洗ふのも、薬液を用ふるのも、大した差違はなく、事後に分時も早く十分に洗ひ出してしまふのであります。針金や栓棒を子宮膣の内へ挿入する方法は有害です。薬液を子宮腔内へ注入するのは子宮の内を荒し、生理的機能を破壊して妊娠せぬやうに企てるのですが賛成できかねます。

【問】 妊娠調節には、どの程度の豫備知識を必要とするでせうか。

【答】 これまでの避妊法は一得一失で男女の健康を障碍することが多く、眞に理

想的なものはないといつてよいからゐです。薬品や器具を用ひるにしても一度や二度はよいとしても、長いあいだ連用すると中毒や炎症、その他の故障を起し易く、いづれも人爲的な不自然なものですから、避妊の必要ある人は一應、醫師の忠言をきくがよろしい。また月経滞りによく効く靈藥などの新聞廣告が出てをりますが、そんな妙藥が、矢たらに轉がつてゐやう筈はありません。まして何ヶ月か停滞したもの、即ち受胎したものを追つ拂ふなどと考へることは、大なる量見ちがひであります。

〔問〕器具による妊娠調節法としては、どんなものがよろしいでせうか。

〔答〕もつとも多くの人々に知られ、そして一ばんひろく用ひられてゐる調節法は、フレンチレター即ちコンドームで、以前にくらべますとゴムの製造など、よほど上手になりましたが、それでも非常にうすいものですから破れやすい。こ

れは、うすくなければ感覺の上に悪い。昔は、うすい色々の布でつくつたこともあるさうですが、兎にかく使ひ方が簡單で無害で、それに安くて効果が確實です。使ひ方さへよければ効果は百パーセントといつていい。性病豫防の目的でない場合は、最初から使はなくてもよろしいのです。コンドームには、ゴム製品、即ち普通ルーデサックとして知られてゐるものと、魚のうきぶくろで作つたフィッシュキンといふものとあります。これは、精子を断然子宮内におくるまいとする方法ですが、もしコンドームに小さな疵でもあれば、何のきゝめもありません。ゴム製品は、暑中や寒中を通すと悪くなつて、ちぎりに破れやすくなりますが、フィッシュキンは、價は高いけれども、上手に使用すれば、二三十回も用ひられますし、具合も悪くありません。それに、夫婦間では、最初から使はなくともいい、價は安いのも一個一圓はしますが、幾回もつかへるし、相手に不快をあたへな

い。もし不快を感じるとしたら、それは精神的のものにすぎない。あとは洗つてリスリンにつけておくとよろしい。

【問】 女子用の器具としては、どんな方法がありませうか。

【答】 安いのと手軽に使へる點で、海綿があります。一名、安全海綿といつて、フランスでは酸をつけよく使はれてゐます。直径三乃至七センチメートルの目のつんだ海綿を使ふのですが、はづれて奥の方へ入つて、とれなくなる缺點があります。西洋では、よく使ひます。綿よりいくらかいゝ位なもので、大てい酸をつけて用ひ、あとで洗滌液で洗滌するのです。最近アメリカでは貧乏な人が大ふ綿をつかつてゐるさうです。脱脂綿でないまつ白なものです。脱脂綿では具合が悪。海綿なども効果はありますが邪魔になります。取り出すときにその方法さへあやまたなければ相當の効果はあります。子宮帽は、子宮頸部に帽子をかぶせた

やうに、びたりと覆ひかぶせてしまふのですが、ダッチベツサリーは、子宮孔に接した部分一たいを一枚の障壁で覆ふことになるのです。これはオランダ政府公認で、同國で四十年來使用しつゞけられてゐるもので、原理は子宮帽と同じですが、子宮帽にくらべて、すぐれてゐます。子宮帽は子宮頸部にかぶせるのですが、その人々によつて大きさもちがうから、素人には困難です。その點、ダッチベツサリーは大へんいゝのです。もちろん廣さが各人多少異つてをりますが、大中小三種ぐらゐの型を用意しておけば、誰にも十分間に合ふ筈で、別に熟練を要せず自分で簡単に装置することができますし、取りはずす場合も形が大きいだけに、すぐ指にかゝります。翌朝になつてから、とり外せばいゝのですから、その點も非常に便利です。そのダッチベツサリーとは、ゴム鞠を二つに割つたやうな半球形の飴色のゴムの縁に金屬製のパネを入れたものです。第一この器具を使用した婦

人、或ひは男子に害をあたへない。第二に使用法が簡単なこと、第三に保存法さへよければ一つのもので一年以上使用できる、第四に値段が安いといふ特徴を持つてゐます。避妊ピンはかなり危険なもので、いろいろの病氣を誘發することが少くない。しかも効力はそれほど安全なものではありません。また使ふにしても一ヶ月ごとに、つまり月経毎にはづさなければいけません。しかしその特徴をあげてみますと(一)効果の確實なこと、ピンを豫め装置しておきますと、妊娠卵が子宮壁に着床して發育することができないのです(二)方法の手軽なこと——一度醫者に装置してもらへば三ヶ月間はそのまま放置しておいてさしつかへありません(三)ピンは金で出来てゐますから一本あれば一生使ふことができて結局一ばん安上りになります(四)妊娠したいときには、いつでも取り外せばいいのです。これにたいして、缺點の方を申しますと(一)子宮だの子宮周囲に故障のあるものは

絶対に使つてはならないこと(二)装置が困難で、経験ある醫者にやつてもらはなければならぬことです。避妊ピンには、いろいろの形がありますけれど、その目的なり作用なりは、ほとんど、ちがひありません。

【問】 藥物應用の妊娠調節法としては如何なるものがありませうか。

【答】 薬品を用ひる避妊法は一ばん簡単で、誰にでもできるやうに思はれますが薬の効力を信じすぎたり誤つたりすると、思はぬ不幸を見ます。避妊薬の代表的なものとしてはキニーネで、微生物を殺す性をもつてゐます、それでコ、ソのXとませて坐薬にしたり、錠剤にしたり、いろいろの形で用ひられます。坐薬にしたキニーネの効力は、もちろん絶対的ではないが、洗滌すれば、かなり役にたちます。坐薬と錠剤とでは、四十歳以上の婦人は、カ、オXの入つた坐薬が適しますし、若い婦人にはカ、オXの入らない錠剤がいゝやうです。坐薬は、薬が強

ければ力は十分にあるわけですが、それだけでは薬が行きわたりませんから、安心はできません。その上あまり薬をつけて使ふと身體に害があります。キニーネを主劑にしたバスタは、膠囊についで用ひたり、又は子宮帽だのベツサリーだの子宮帽などにつけたり或ひはそのまゝぬることもあります。液體のものは、注入器を用ひたり、その他いろいろの不都合な點があるから推奨できません。キニーネの一回の使用量は内服する場合の五分の一以下ですから害はありませんが萬一、耳なりがしたり、眠れないやうになつてきたりしたら、それはキニーネに特別に過敏な人なのですから、使用を中止した方がよろしい。昇汞を應用したのもありますが、さう強いものはないから中毒することはないだけに、また絶對的効果をあげることにはできないのです。水銀劑も用ひられますが、これは効力の點でキニーネに劣り、しかも有毒ですから性病豫防以外は使はない方がよろしい

マリーストープスは、理想的の藥品として刺戟もないし、價も安く、案外簡単に効果をあげることができます。粉末明礬は、うすく湯にとかして使ふのです。粉末のまゝ用ひては刺戟が強すぎて使用できません。乳酸、枸橼酸、醋酸なども適宜にとかして用ひるのですが、これらの原理は、藥物の酸性を利用して精子の運動性を奪ふのが根本です。又、同時にたくさんの泡ができて、その中に精子をまきこむことになるのです。しかしあまり古くなると分解作用をおこして効き目がなくなりまゝです。それに方法としては簡單だが、炎症をおこしたり、藥物の残りが腐敗したりするおそれがあります。どの薬品を用ひるにしても、それだけを單獨に使つたのではいかぬ。器具を併用するとか、洗滌法を併用するとかしなければ安心できません。避妊法としての洗滌は、薬品などを併せ用ひて、はじめて効果があがるもので、洗滌だけでは不十分であります。日本の家庭では洗滌が困難で

すし、實行したところで、徹底的に洗滌することはできないのですから、あまり期待しすぎにはよくありません。洗滌用の薬液としては、リゾフォルム、チノゾール、明礬末、硼酸末、枸橼酸、クレンジール、過俺剝などを一ど沸した湯にかして用ひるのが一ばん手輕です。それから、洗滌は最初はうまく行きませんがなれるにしたがつて上手になります。また薬液は酸類の度をこさないことが必要です。淡水か、石鹼のぬるま湯で洗ふこともよろしい。石鹼はアルカリ性の強すぎるものはいけなから化粧用の石鹼が適當です。また洗滌できないときには、硼酸の飽和溶液で、よく十分にふきとるのがよろしい。飽和溶液とは、一定の水なり湯なりの中に硼酸を入れて、だんだん分量をふやして、かきまぜて行くと、或る分量だけとけた後はもう沈澱するばかりでとけなくなる。さうなつたときの液體が即ち飽和溶液です。

【問】器具も藥物も用ひない妊娠調節法はないものでせうか。

【答】授乳中は妊娠することが少いけれども、それだからといつて、いつまでも授乳をつゞけておれば妊娠しないといふ考へは、まちがひです。乳をのませておいても妊娠します。×外法、中絶法などは氣のもち方で、身體に大した影響はないけれども一般的には不自然で、射外法は神經衰弱にかゝることあり。中絶法も、ずの分古くから用ゐられておますが、統計によると、この方法を用ゐた百人のうち六十九人半までが失敗してゐる。これは、中絶する以前に、既に受胎能力ある精子が出てゐるからだといふのです。この方法は、原始的な産兒制限の形式ですが、受動的な冷靜な型の婦人ですら、妊娠したといふ幾多の實例が知られてゐるにもかゝはらず、文明人の間においてさへ避妊方法として今日なほ甚だ頑強に信ぜられてゐます。抵抗に抵抗しつゞけた場合でさへ、妊娠することがあるので

すから、こんな方法は無効です。女性の位置を工夫するとか女性が身體を激動させるとか、はげしく足ぶみするとか、強く咳をすることかいふ方法も多少の効果はあるでせうが、日本の現在の生活様式では實際上、出来ない相談であります。

【問】 男女両性による季節の應用と禁慾の方法は如何でせうか。

【答】 日本の統計によつて見ても、春には妊娠が多く、夏には比較的少ないのですが、さうした季節の關係も多少はあるにせよ、個々の人によつてその條件がちがひますから一がいにはいへません。絶對的な方法として、完全拒否、即ち絶對禁慾を主張する人が稀にありますが、頭から禁慾したのでは、何ら妊娠調節に關係はなく、言ふべくして實行は不可能です。それよりも排卵期を測定すること、月經の正しい人ならば、來潮前一週間は先づ安全です。一定期間の禁慾はカンリツク教徒の間で實行されたやうです。カペルマンといふ男は、その著書のなかで

月經開始後の全二週間と開始前三四日間の禁慾を奨励してゐます。わが國でも荻野博士は、豫定月經前の十二日乃至十九日間が排卵期で、その他の日には妊娠しないといふ説を立て、をられますが、この排卵期を避けることは、比較的有効でせう。

【問】 何等か特殊な避妊の方法はないものでせうか。

【答】 精子を適當に處置し、妻の皮下もしくは筋肉の中へ一定の日を隔て、注射すると、その注射をうけてゐる間は妊娠しないといふ方法がありますが、その注射の効力は、すぐ駄目になるやうです。將來はいゝものが出てくるかもしれせん。もつとも尖端的な妊娠調節法の一つとしては、ホルモンを利用したもので、妊娠した動物の卵巢から、そのホルモンをとつて人間に注射する方法です。これは、今日では、一ばんに認められてをりません。それから、婦人が生理的にもつ

てゐるデーデルラインの積菌を人為的に培養して多分にしておけば、この菌は精子を殺すといふ理論が立てられてゐますけれど、今のところ理論だけのやうです。

【問】 これならばといふ絶対確實の妊娠調節法はないものですか。

【答】 光線放射による細胞破壊の方法として、レントゲンをかけて卵巢の機能をこわすことによつて避妊の目的を達しようとする方法があります。レントゲンは多くの場合、永久に妊娠できないやうにしてしまふのですから、妊娠調節法といふよりも不妊法といふべきです。レントゲンをを用ひると、感覚がにぶくなる傾きはありますが、レントゲンを使用した爲めにおこる缺落症候は、手術で卵巢をとつてしまつた場合にくらべると、非常に軽くすみませす。レントゲン線は、ごく少量を用ひますと、それが刺戟となつて身體の細胞を興奮させる。多量に用ひると反對に障害作用をおこす。ずつと多量になると、細胞がそれつきり死んでしまふ

といふ破壊作用があります。このレントゲン線にたいする感受性は、同じ身體のうちでも、それ／＼の細胞によつて皆ちがふので、睪丸とか卵巢とかはレントゲンにたいして割合に弱い。たとへば皮膚へかけて少し色がつく程度の強さの半分、或ひは三分の一の分量のレントゲンを、睪丸なり卵巢なりにかけますと、睪丸であれば精蟲をこしらへる細胞が死んでしまふ、卵巢であれば卵が發育できないやうに死んでしまふ。その働きを利用して、妊娠をさげなければならぬ人の卵巢なり睪丸なりへ、レントゲンをかけるのであります。その場合、分量を加減しますと、或る時期になると、その細胞がまた生きかへつてくる。永久に子どもを生むまいとする人は、分量を多くかければよろしいのです。その費用は一概にはいへませんが三、四十圓はいります。時間は一時間もあればよろしいが、何となく憶劫でとりつきにくいものです。効果の點は、ほとんど絶対確實だといつてよ

いでせう。レントゲンを卵巢にかけた婦人は、亭主をかへりみないやうになる、冷淡になるといふ心配は全然ありません。脱落症状の點も、ちよいちよいのぼせたり、原因なしにポーツと顔が紅くなつたり、ひどい人だと頭痛がしたり、めまひをおこしたりする程度で大したことはありません。ラヂウムも避妊の目的で用ひられてゐますが、ラヂウムとレントゲンとのちがひは、一口でいへば、ラヂウムは天然の放射物體でありますし、レントゲン線(即ち X 光線)は高壓の電氣によつて發生させる人工的の放射線です。實際醫療の上では、ほとんど同一の目的に使はれてゐますが、ラヂウムの方はレントゲンよりも早く効きめがあらはれるそれから、レントゲンは人工的に無限につくれる關係上、身體の廣い部分を平等に放射するのに便利ですし、ラヂウムは、せまい部分を強く放射するのに都合がいいのです。それでラヂウムでもレントゲンでも、同時に避妊の目的に用ひられます。

ます。

【問】 手術による妊娠調節は如何なることになりませうか。

【答】 絶對的避妊手術としては卵巢をとつてしまふことでありますが、卵巢は全身に作用して、女性を女性らしくするホルモンを分泌する器關なのですから、特別の場合でなければ行つてはいけません。殊に將來、子どもがほしくなるかもしれないやうな若い人々の間で行ふべきではありません、これを實行すれば、もう永久に子どもが生れないのですから。尤も最近ベルデエ式卵巢手術といつて、卵巢をとつてしまはないで、しかも妊娠したい時は、いつでもまた妊娠できるやうにする方法がはじめられました。これは、一口にいふと卵巢と喇叭管との間の道をふさいでしまふもので、手術も入院二週間ぐらゐで、できる簡單なものです。あとで妊娠したくなつたら、もう一度手術して、その道をあけてもらへばいゝわ

けです。その他、絶對確實の方法として、喇叭管の結紮と、睪丸摘出があります。喇叭管の手術は絶對的で、安全で誰にでも行ふことができます。この手術をするに、開腹手術をやるだけの場合、結紮の代りに烙斷の方法もあり、結紮の効力をもつてゐるだけに、やむをえない病氣にかゝつてゐる者をのぞけば、五十歳以下の人はやめた方がよろしい。機能には何等さしつかへなく却つて若者がへります。スタイナツハの若返り法といふのはこれです。

【問】 最も理想的に妊娠調節に成功するには、どの方法がよろしいでせうか。

【答】 どの點からいつても理想的といふ方法は、今のところ、どこにもありません。何れも一長一短の比較的問題です。さうした程度の上でならば、洗滌と、

洗滌のできない場合は、礫酸の飽和溶液でよくXとすること、それから金をかけるならば手術と、この三つであります。簡単なものとしては、ルーデサックと、フイツシスキンが比較的によろしく、洗滌法も、すぐ行へばよろしいが、日本の家屋では思つたやうにできないのが缺點です。先づコンドームやダツチベツサリ一が一ばんよろしいでせう。何れにしても一定の豫備智識、つまり婦人性器の解剖と妊娠の生理について一通りの理解がなければ成功おぼつかない。それがわかつてゐれば自然、調節法の極意もわかつてまゐります。結論としては婦人が無精であつてはいけません。無智や無精のために、ずいぶん滑稽な失敗談をきくこともあります。又よし一つの方法に失敗しても、一般の調節法全部を駄目なものだとあきらめたり失望したりしないで、最も自分に適した方法を發見するやうに努力すること。且つ或る一つの方法をやつた爲めに神経衰弱になりかけるとか何と

か、身體に異状が見えた場合は、すぐにそれを中止して、方法をかへなければいけません。すべて、どんな方法にも多少の弊害はあることを忘れてはなりません。

〔問〕 醫學的に見て是非、妊娠調節を實行しなければならぬのは、どんな場合でせうか。

〔答〕 妊娠調節の必要な病氣の第一は呼吸器結核、即ち肺および喉頭結核であります。この呼吸器結核の婦人が妊娠すれば、たとひ一時病勢が停止してゐた者でも、そのために、いちどるしく病勢が亢進します。第二は腎臓病および心臓瓣膜病の患者で、これも妊娠から出産までに母親としての大きな生理的負擔にたえられないため、往々にして不幸を見ます。糖尿病の婦人も、妊娠すると非常に病勢がすみがちで、尿の中から自然と多量の糖分を排出するため、不幸な結果をまねきます。次は血液疾患で(イ)白血病(ロ)悪性貧血(ハ)血友病の三つに分つこと

ができます。白血病は、血液中に白血球が非常に多く、脾臓がはれたり顔が蒼白くなつたりするので、妊娠と合併すると、おどろくべき多量の出血を見、死期をはやめます。悪性貧血もこれと同様で、皮膚が蠟のやうに白くなり、非常につかれやすく、血液中から血色素や赤血球が減る危険な病氣です。血友病は血液の凝固性が弱くなり、小さな箇所からも多量に出血し、出血をとめることができなくなるので、妊娠はぜひとも適当な時期に中絶するがよろしい。第四は脚氣症の婦人が妊娠すると、下肢の倦怠、歩行不如意、下肢のむくみ、知覺異常、心悸亢進胸内苦悶などの症状をおこします。また分娩時には陣痛微弱を呈し、胎盤の出血がたがわるかつたり、子宮の收縮がおそかつたりして、そのために弛緩性の出血などをまねきやすいのであります。最後に産道の狹窄は、胎児を碎縮しなければならなくなるものです。産道の狹窄とは、赤ん坊を生み出す出口の道の直徑が五・

五センチ以下に畸形状態を呈してゐるか、あるひは、生殖器内に大きな腫れものがある、産道をせばめてゐる場合で、ことによると、胎児を碎縮してもなほ通過しない場合さへ生じます。かうした婦人は、あらかじめ妊娠を避けねばなりません。妊娠した場合、もちろん中絶するよりほかありません。その中絶の時期は、肺結核、喉頭結核のごときは、おそくも妊娠四ヶ月以内、病氣でいふと第一期か二期のうちに中絶しないと、病勢が第三期におよんでは全く効果をあげる事ができなくなります。

【問】 結核患者には妊娠調節は出来ませうか。

【答】 結核にかゝつた人は、それが全く治癒するまでは、妊娠を避けた方がよろしく、もし結核の人が妊娠した場合に、妊娠中絶術を施すべきや否やは軽々しく決定することができません。何故ならば、結核初期軽度の場合には通常、妊娠の

ために体内の新陳代謝機能が亢まつて、治療上に好い結果を來すことが多く、たとへ一時悪阻症状のために營養を害されたやうに見えても、多くは後半期にはよくなり得るか、少くも大した悪影響を被らずに済むことが實驗されます。その反面には、結核の度がやゝ進んだものでは、妊娠のために病症がますます進行し、殊に産後に急に悪くなり、そのために死期を早めることも尠くありません。そこで妊娠中絶術を施すには病症の輕重の程度、進行の模様、個人の素質、結核の性質、妊娠の時期その他種々の點を勘考して可否を決すべきです。

【問】 暴力によつて妊娠させられた場合は墮胎してもよろしいでせうか。

【答】 國家の命令や禁令に違背する行爲を、違法行爲といひます。國家が強制もしない、禁じもしない(いひかへれば)罰もしないがまた獎勵もしないといふ行爲があります。これを放任行爲といひます。避妊は即ちこの放任行爲にあたる

ものですから、自分の欲するまゝに自由に避妊して少しも差しつかへありません
 しかし一旦受胎したものが墮胎を行へば罪になるか否やは別問題です。墮胎とは
 自然の分娩期に先だち人為的方法をもつて胎児を母体外に排出する行為をいふの
 であつて、その方法如何を問ひません。藥物によつても、あるひは器械を使用し
 ても、いやしくも胎児の排出に適する以上、墮胎罪として認められます。墮胎罪
 には(一)懐胎した婦女自身が行ふ墮胎罪(二)第三者による墮胎罪がありまして、
 第三者による墮胎罪をさらに(イ)普通人が婦女にたのまれて又はその承諾をえて
 行ふ場合(ロ)醫師、産婆、藥劑師、藥種商が婦女にたのまれて又はその承諾をえ
 て行ふ場合(ハ)婦女の囑託または承諾によらずして行ふ場合の三に分けます。刑
 の輕重は婦女みづから行ふ場合が最も輕く、次が普通人、醫師、産婆、藥劑師、
 藥種商がなす墮胎は普通人よりも重い刑を科せられます。墮胎の結果として婦女

子を死傷させたときは、傷害罪として重く罰せられますが、墮胎行為にとりかゝ
 つても、方法がまづいとか、あるひは藥品がきかなくて墮胎の目的を達しえなか
 った場合は罪になりません。墮胎罪は胎児の存在、又はその生存してをることを
 前提としますから、胎児存在せず又、存在するも既に死亡してをつて、これを體
 外に排出するだけの行為は墮胎罪となりません。現行刑法上の墮胎罪は大體、以
 上の通りですが、法律は妊娠の原因如何を問ひませぬ。自己の意思によらずして
 妊娠した場合たとへば強姦によつて妊娠させられた場合においても墮胎と認めら
 れます。しかし強姦による妊娠、又はこれとほとんど同視せらるゝ場合のある主
 人と女中との關係のごとき、婦女子にとつて大きな危難である場合に行ふ墮胎に
 たいし一様に墮胎罪をもつてのぞむのは、あまりに不合理、あまりに慘酷であり
 ます。不徳な男子のために彼の女らは貴い誇りを奪はれ、あまつさへ恐ろしき妊

娠に陥り懊惱痛苦、身のおきどころなく毒薬に、河中に、或ひは列車の車輪の下に身を投ずる痛ましい幾多の結果を生んでゐます。妊婦が肺結核、心臓病あるひは強度の狭窄骨盤等のため、母体の危険を救ふ必要上、醫師が行ふ人工流産（墮胎）が罪とならぬことは誰もみとめるところですが、かゝる場合、人工流産してよろしい墮胎してよろしい、とは刑法には勿論、醫師法その他いづれの法律にも規定はありません。では何故に罪にならないか、といへば、母体を救ふためやむをえないといふ一事によるからです。即ち緊急避難行為になるからです。この理論を前例の場合にまでおし擴げて適用することはできないものでせうか。國家が墮胎罪を罰するのは、胎児を保護せんとするにあります。しかるに胎児を保護せむとして、かへつて胎児と母親と二つながらの生命を失はしむるの悲惨な結果をまねいてゐるのは何といふまちがつたことでせうか。殆んど強姦同様の行為によ

り妊娠させられた場合、或ひは白痴が受胎したときの如き、その必要を認めると同時に、少くとも強姦による妊娠の場合は無條件に墮胎してよろしい、といふ意味の一文を現行刑法に追加せられたいものであります。

〔問〕 食物で妊娠調節ができませんか。

〔答〕 栄養は單に私どもの肉體生活の上に傳はつてゐるばかりでなく、人間生活全體の上に、重大な關係があります。それは生長とか、繁殖とか、乳の分泌とかその他、各種の疾病などが栄養と密接な關係をもつてゐます。食物によつて妊娠調節ができるといふことは、奇異の感じがしませうが、このことは歐米の學者たちが動物試験によつて充分にその可能を證明してをります。栄養素として必要な蛋白質、含水炭素、脂肪、無機質ビタミンA、B、C、Dなどを含んだ食物をもつて、動物試験を行ひますと、その動物は以上のやうな食物によつて、充分に成

長發育をとげ、かつ健康と活動を保持することが出来ます。ところがこの際、新たに発見せられたことは、以上の食物がきはめて完全な保健食の観を呈してゐるにも拘はらず、その動物の繁殖作用が、全然缺損してゐることでもあります。そこでこの動物に、以上のやうな食物のほかに野菜を添へて與へると、たちまちその繁殖作用を現はすのであります。これによつて、菜食が繁殖と重大な關係のあることがわかります。この繁殖作用を行ふ成分を、ビタミンEまたはビタミンXと名づけられてゐます。ビタミンEまたはXといふ物質の本體は、他のビタミンの本體が不明であると同様に、今日なほ研究が完成されてゐないけれど、要するに或る成分があつて、とくに動物の繁殖に密接な影響を與へ、この成分の有無によつて、繁殖作用の可能不可能が分れるのであります。食物の改變によつて、隨意にこれを繁殖に適せしめ、或ひは不適ならしむることが人為的に行はれるのは、

なか／＼興味ある問題であります。この事實から推してゆくと、つひには各種の人間を任意につくり出す時代が來るであらうと想像し得られます。現に動物試験においては、産出する子供の性までも、意のままにすることに成功してゐます。

【問】 妊娠したか否かを最も早く知る方法はないものでせうか。

【答】 妊娠の早期診断は、なか／＼六ツかしいものでしたが、醫學の進歩につれ妊娠一週間目くらゐでも、診断が確められるやうになりました。尿診断法は、産婦人科學上、興味のある問題で、實際に九十八%以上、正確に診断し得ます。一たび妊娠すると、尿の中に、急に澤山の腦下垂體前葉「ホルモン」(この腦下垂體といふものは皆さんの頭の中にある一つの臓器で、その臓器には前葉と後葉とがあります)が排出されるもので、この「ホルモン」はその後妊娠の續く間は、絶えず排出

されてをり、お産がすみますと、九日目くらゐから無くなる妊娠特有なものです。この妊娠早期診断は、診断を受ける人の尿の中から、脳下垂體前葉「ホルモン」の有無を證明すればよいので、まづ妊娠であるか、どうか判らない方の尿（朝起きた時の尿が最も良い）を清潔な「コップ」にとり、小便が腐敗しないやうにするために、薬を入れて能く混和し、その尿を二十日鼠かまたは兎に一定量づゝ數回時間を決めて注射し、一定時間後に、その動物を殺して卵巢の變化を調べて、妊娠であるかどうかを知るのであります。もし妊娠してをれば、試験動物の卵巢には、肉眼でも見得るほどの變化が來ます。この妊娠早期診断法は、普通の正常妊娠の時は、もちろん診断はつきませんが、また子宮外妊娠の時も、矢張り妊娠陽性と出て、喇叭管炎か子宮外妊娠か、診断に苦しむ時などには、この方法によつて明快な鑑別診断ができます。また妊娠に關係のある恐るべき葡萄狀鬼胎や、産後

に時々ある悪性脈絡膜上皮腫の時にも陽性に出ます。この時は正常妊娠の時よりも、卵巢の變化は著しいものであります。その他子宮出血の時それが流産による出血であるか、他の原因のものかの區別にも、用ひられます。

【問】 貧乏者の子澤山といひますが、粗食の律義者は、何ゆゑ妊娠し易いのでせうか。

【答】 選ばれた兩性が、健康状態の持主であつて、その愛慾が合理的であるならば、結婚は一兩年の間に懐妊の喜びを迎へることになります。ところが往々にして、愛兒の得られない不妊症の中に、男性に原因を有する場合もあるが、女性の子宮の位置の異状、發育の不全、内外膜炎、實質炎、附屬器の炎症、卵巢機能の不全等々の中には、全身の健康状態とは關係なきが如くして、しかも不妊の原因をなす場合が多いものであります。貧乏人の子澤山といはれその妊娠率が有産階

級に比して秀れてゐるのは、各國民族の妊娠率に、ほぼ同様に見られます。物質文明を誇り、富力冠絶する歐米人種の増殖率は、他の財政豊かならざる國民に比して、はるかに低下してゐる現象は、その増殖率が富力と反比例することを證します。そこには露骨な産兒の制限が行はれつゝあるとしても、しかも亦た不自由なき有産人種は、その生活の潤澤と豊満とによつて、兩性の愛慾が本能の命ずるがまゝに遊戯的に傾き、衝動のまゝに享樂せられて、少しもコントロールされな

い結果、性の機關を障害に導く場合も多く、或ひは又その合歡の過剰は、性情に

よる免疫的狀態におかれる場合が極めて多いのであります。一方その日の糧に忙しき階級においては、その生活の内容が、共稼ぎであり、かつ相對的な夫婦生活

が營まれ、しかもその生活苦は、つねに御互ひの心をいら立たせる場合が多く、

蜜の如き語らひは忽ちにして葛藤となり、争鬭となり、その生活様式においても

廣からざる家において第三者の楯の如き眼を盗み私かなる無言の結びつきは、その結果より見て極めてよくコントロールされるものであります。それ等の現象は

あだかも律義者の子澤山といふ事實と、對照して、極めてよく理解せらるゝやう

であります。すなはち下層階級者の妊娠率が、富者のそれに比して、秀れてゐる

事實は、その健康、或ひは榮養の劣れるに由るといふよりは、むしろその境遇が

必然的に、その愛慾を合理的にコントロールされる結果に基くことを第一の原因

に挙げねばなりません。また榮養方面では富者の食事が誤まれる榮養學の立場よ

り、脂肪と蛋白質の過剰なるに反し、貧しき階級が、その費用の黠より選ばれる

粗食と菜食が、かへつて眞の意味において完全に近き榮養食をとりつゝあるの事

實を第二に指摘せねばなりません。

〔問〕 妊娠調節にはどんな失敗をし易いものでせうか。

【答】失敗といつても、そのために恐ろしい被害を受ける場合もあり、また単に避妊の目的を達することができなかつたといふ程度のもものもあります。コンドームは、もつとも多く用ひられてゐるやうですが、これは失敗しても害を及ぼすことは全く無いといつてよいでせう。ただ破れる場合、充分な効果をとげることができないといふだけです。コンドームにもいろいろありますが、ゴム製のものよりフィツシユスキンの方が、うすいだけに破れ易い危険はあります。ピンは子宮口をこわしたり、中へ喰ひこんでしまふことが往々あるやうです。これは避妊の効果よりも、むしろ墮胎に導く悪い効果をもつてゐるといふ意見もあります。またこれを長く使つてゐると子宮口が不完全になつたりして流産しやすくなるともいわれます。いづれにしても金屬を体内に入れておくことはよい影響はないでせう。タンポンも簡単ですが、物によると腔内を刺戟することがあるやうです。一

ばん多く用ひられてゐるのは海線のやうですが、これも用ひ方によつては内部をこはすおそれがあります。ダツチベツサリは普通には害はないでせう、しかし何しろ異物を体内に入れてゐるのですし、これがまた相當の大きさをもち、多少の弾力をもつてゐるのですから無謀なことをすれば害を起す恐れがないとはいへません。けれども、これはコンドームなどと共にまづ、もつとも害のないものです。しかし、調節の効果からいふと動き易いので、とてもコンドームまでの確實性はないでせう。薬品には充分避妊の効果があるか否か問題ですし、利くやうなものには内部をこはす恐れがあります。またこれを長く使ふと不感症になるといふれ、解けないために効を奏さないことがあります。中絶法は實行が困難だと思ひます。もし行へれば直接的に害があるのでなく精神的に悪影響を及ぼすものといふべきであります。

【問】 現在行はれてゐる各種の妊娠調節法は實際上どれだけの効果をあげてゐるものでせうか。

【答】 現在の状態ではピンを用ひる場合に、時とすると失敗があり、また薬品の場合に効果を奏さないといふ程度です。現在の妊娠調節法が實際生活上どの程度の成績をあげてゐるかといふに、コンドームはまづ失敗はないやうです。排卵期の測定によつて妊娠日を避ける方法は非常によい効果をあげてゐるやうです。來潮豫定日前の一週間に妊娠したものは、まだ一人もないと或る博士はいつてゐられます。絶対安全といひたいところですが月經の不順な人には危険があります。ダッチベツサリーも指導した通り使へば失敗はなく、失敗したといふのは使ひ方が適當でなく、たとへば使用後すぐ取り出したといふやうな場合であるやうです。ピンも専門醫の手によつてなされるものは七八パーセントの確實さをもつてゐる

るやうです。薬品は直接に醫師の調剤であれば大體、好結果を得てゐるやうです。ただ一般的の賣薬が、どれだけの成績を得てゐるか分りません。

アメリカなどでは洗滌法が非常に行はれてゐるやうですが、このためにたしかに妊娠が少くなつてゐるといはれてゐます。いづれの方法も醫學者によつて肯定されるほどのものなら相當の効果あることはもちろんです。

【問】 妊娠調節の失敗や弊害についての注意を念のため聞かせて下さい。

【答】 實行上の場合コンドームは往々破れる恐れがあります。事後にそれを發見した場合は一ときも早く洗滌することがよいのです。適當な洗滌器があればよろしいけれども無い場合はスポイトでもよいから成るべくよく洗ふことがよろしい。その器具もない場合は、お腹をたたくとか強くせきをするとか運動するとか、それだけのことをしても大へん違ひます。絶対的ではありませんが多少とも効果は

あるやうです。ダツチベツサリーなども、もし位置が填倒してゐたりした場合はなほすやう應急手段を早くとることがよいでせう。薬品は第一にあまり泌みるやうなら強すぎるのですし、若い人、年とつた人などによつて適度もちがひます。體質によつて薬に弱い人もあります。ピンは正常な位置を保つてゐるかを注意してゐることが必要です。ピンを装置しておく部分は、ほとんど感覚のないところですから、ちよつとピンがすれるくらは感じません。そこでこれは一ヶ月ごとぐらゐに入れかへてもらひ、その間にも自らよく注意しなければなりません。それから一般的には、自分が避妊の方法を行つてから月経についての變化はないかピンを装置してゐながら月経が後れることはないかを注意しなければなりません。

【問】 妊娠調節の器具、薬品、方法の選擇についてお教へ下さう。

【答】 薬品は充分な効を奏するものかどうか調剤の主成分について専門家に見て

もらう方がよいでせう。懇意な醫者に直接調剤してもらへば一ばんよいのですが賣薬の場合には公然、避妊薬と名乗つて出てゐるものはなく。また避妊薬を賣ることは現在の法規では認可されてゐません。そこで現在は避妊に効果あるものでも花柳病豫防剤として出ることになるので、避妊については責任をもたないといふなければなりません。なほ薬品は若い人には錠剤がよく年とつた人には座薬の方がよい脂肪分が多いからです。タンポンはあまり硬質のものをを用ひないこと。ダツチベツサリーは適度の大きさを選ぶこと。コンドームはなるべくうすくて丈夫なものがよいでせう。避妊器具は便利なものがよい譯です。洗滌はただ洗ふだけのものですから、むやみに危険な薬品など使ふ必要はありません。

【問】 妊娠調節を實行するに當つて注意すべき事項を御教へ下さい。

【答】 ピンは素人が入れては危険です。一ヶ月に一度くらゐは入れなほさなければ

ばいけません、あまり入れ放しでくと内部を傷けたり、中へ喰ひこんだりします。三ヶ月以上おいては危険といはれます。コンドームは質の堅牢であることが第一です。タンポンは内部を傷けぬやう常識的に注意すること。ダツチベツサリは、入れ方に注意を要します。これを用ひる場合は生殖腺の組織についての知識を必要とします。これを用ひたあと、すぐとり出さないことが必要です。薬はよく解けるやう注意すること。とけなかつたら効力はありません。強い刺戟を受けるやうなら止めた方がよいでせう。中絶法は程度を考へることが第一です。精神的に不快だつたらよい影響はありません。なほ凡てのものは消毒を充分にすべきことはいふまでもないことです。

【問】 妊娠調節相談所や妊娠調節業者に欺かれた場合、どんな手段をとることができませうか。

【答】 法律の見地から観れば、各自の受胎調節(避妊)は法のこれを放任するところですが、墮胎はこれを禁止してゐます、即ち法律は胎児を保護し、婦女自ら墮胎すれば一年以下、素人が婦女の囑託を受けて墮胎すれば二年以下、更に醫師、産婆、薬剤師等の職業人が婦女の囑託を受けて墮胎すれば五年以下、墮胎によつて婦女を死傷すれば七年以下の各懲役に處せらるゝことを規定してゐます。即ち各自が行ひ得るのは避妊だけです、これも醫學的に完全無害なる方法の有無、これを悪用するもの、有無など、その行政的監督方法に困難な問題が残ります。近時、産兒制限が高唱さるゝや、この間に處して賣薬業者、その他、不良の者が「數ヶ月の月經閉止を安全確實に流下する秘薬あり」とか「少い子供×××××」とかか廣告し、墮胎を諷したる通經薬器具、避妊を諷したる消毒薬を發賣して多數の婦女を惑溺さしてゐますが、若し賣薬が實際、墮胎薬であれば、それを服

用墮胎した婦女は墮胎罪として處罰されるし、右の器具や藥品によつて胎児が死傷すれば婦女は墮胎罪となり、施術者は墮胎死傷罪となります。

【問】 妊娠調節相談所とか産兒制限營業者の實際の内状は、どういふものでせうか。

【答】 妊娠調節相談所、器具、藥品の販賣業者の現状を見ると、そこへ出入する人々は、妊娠する前に調節を構ずるためにゆくよりも、すでに妊娠してしまつたものを何とかしやうとして行くのが多いやうです。營業者の方では、この要求を巧みに利用して暴利をむさぼるものも少くないのであります。現在、妊娠調節に關する營業者は、正當な妊娠調節についての器具や藥品を賣るだけではなか／＼營業が成り立たないといはれてゐます。しかもこの誤つた妊娠調節、つまり墮胎器具を賣物にする營業者が果してそれだけの知識をもつてゐるかといふと、これ

も實に覺束ない。無害で墮胎する藥など絶無といふべきでせうし、生命に危険を及ぼすやうなものを賣れば營業者自身が明るい所にゐられなくなる譯であり。また手術などについては、どこまで科學的な知識をもつてゐるかも解らないといふのが一般的な現状です。

妊娠調節の成功談、失敗談いろいろ

【授乳期をのばす説を信じて失敗した話】 いやだ／＼と思ひながら、たう／＼四人目の子供を生んでしまひました。ある事情から十八で結婚した私は、やうやく廿三になつて、もう四人の子供がごさいます。小さいころのお友だちなどは、ちやうど新婚の夢によつてゐらつしやるといふのに、すつかり世帯やつれしてしまつた自分を見るとほんとうに、なさけなくなりませす。こんな私の氣持からも、また主人も私も、若いゆゑに、物質的にも何らの力のない生活から、まあ初めての子供は仕方がないとして、二人目からは、妊娠するたびに、もう今度こそはやめやう、今度こそは生むまいと、もう何年思つて來たこととせう。しかし私は、さう思ひ／＼、たう／＼四人目の子供まで儲けてしまつたのでした。廿七八の奥様

盛りの人が、一人か二人のお子さんで、ゆう／＼とお化粧までしてゐらつしやるのを見ると、つく／＼羨ましくなりました。すると、ある時、近所に住まつてゐらつしやる相當の年配の未亡人の方から、お乳をのませてゐる間は、後が出来ないから、なるべくお乳を引つばつてごらんさい、といはれました。なるほど、お乳をやつてゐる間は後ができないとは、自分が母からも聞いてゐた記憶がありましたので、なるほど、これならよいだらうと、お誕生すぎても、ずつとお乳を離さずにをりました。これは、自分も信頼してゐましたので、その間は安心した生活を續けてをりました。しかし、お乳をのませてゐやうと、どうしてゐやうと自然の約束は、どうにもならないのでした。私は、やはり四人目を生んでから二年と経ないうちに、ちゃんと妊娠してをりました。その間の期間といひ、今までと同じやうでした。やはり、お乳をやつてゐても、ゐなくても、少しも變らな

つたのでございます。せめて、延ばすだけでもできたらと思つて、望み切つてをりましたのですが、全然その望みは空に終つてしまひ、私はもう廿五の年には、五人の子持となり、夫婦とも、全く思案にくれてしまひました。

授乳期を延ばすことと、妊娠とは關係があるのかも知れませんが、やはり私ともは、もつと徹底的に確實な方法を得たいと思つてをります。さういふ効果のあつた方もあるのでせうが、私は不幸にして失敗してとりかへしのつかないことになりました。

【注意深くコンドームを用ひて成功した話】私は長男と長女とが年子に生れ、三番目がカッ／＼に三つ目になりましたが、結婚早々から、間が近いので困つてをります。そこで私たちは、かう間が近くては仕方がない、せめて間だけでも少しくやくやうにと、三番目が生れてから、二年ほど、コンドームを用ひてをります。

私たちは、初めからコンドーム第一ですが、やはり、これが一ばん安全で、私どもも素人が考へても確實な譯です。私たちは、これによつて、ずつと完全な効果を収めてをります。また、コンドームは、効果は確實だが、精神的に充分でないといはれ事實、私たちも、その経験がございましたが、これは使用する上に双方、充分の意を用ひますれば、ほとんど完全に近いまでに補ふことができます。またこれは自然の交りを遮断するが故に、生理上に害があるといふやうなことも伺ひ心配でもありませんがそれが害があるといふ醫學的根據はないと承はり安心いたしました。これで全く完全とは申せませんが、この程度なら堪へ得られないことではないと、ほとんど満足してをります。

【自分の體から考へた妊娠日避けて成功した話】私は二人子供がございすがもう二人あれば澤山ですので、何か産兒制限の方法はないかと思つてをりました。

丁度その時、私、ふと考へましたことは、この二人とも月經の終つた日から分娩の日までが、ほとんど同じ位だつたといふことです。二度の妊娠とも、月經の最終日をはつきり記憶してをりましたのです。すると長男の時の方が、最終月經日から二百八十二日、次男の方が二百八十六日でございました。

こんなことが、ふと胸に浮んで妊娠には、やはり日があるのだらうと考へました。私は妊娠の期間は、常態として四十週間であるといふことを聞いてをりましたので、ちようど私の場合は二回とも、月經が終つてから一週間ばかりのうちに妊娠したものであるといふ確信が得られました。それ以後、素人醫學であふないものだと思ひながら、この日取りを信頼し、なほ大事をとつて、最終月經日から十日間は、絶対につしむことにして參りました。これは、なかく困難なことです。主人ともよく諒解の上、お互ひに守つてまゐりました。そのためかして

もう長男が七歳、次男が五歳になりましたが、まづ、この分では後は無ささうです。何だか、素人考へのやうですが、これは人さまにもおすすめしたいと思つてをります。

【何の効もなかつた避妊薬の話】 私どもは一時、避妊薬を用ひてみたことがあります。小さな硝子筒に入いつた錠劑で、使用にはごく簡便でした。一本が一ダース入りですから、私どもは恰度一ヶ月近く用ひてみました。ところが、その一本がなくならないうちに、どうしたことか、その月の月經がないのです。まさか妊娠するやうなことはないと思つてゐましたところが、だんく日數がたち、いつも前に腹痛を催すのですが、そんな氣色もありませんやつぱり妊娠かしら、といふ不安が頭に起つてきました。さうしてゐるうちに、ついに翌月はありませんでした。とう／＼そのまゝではゐられなくなつて××大學病院へ參り、引きつづい

て、病院へは時々通つてゐました。ところが、そのうちに、すっかり食事が進まなくなり、お臺所の臭ひなどで、胸がむか／＼するやうになりました。もう病院で診断を受けるまでもありません。私どもに於ては、避妊薬は絶対に駄目でした。奨めた友人は、他の人は皆な成功してゐる。充分溶解しなかつたのだらう、といつてゐますが、もう避妊薬は安心できません。

【薬品と洗滌法を合せ用ひて成功した話】 避妊法につき私たちは、いろ／＼考へました。末、一つの方法では何だか安心ができないので、適當なものを選んで二つの方法を併用することにいたしました。自分たちの感じから薬品と洗滌の方法とを併用してみました。薬品は交際のある醫師の方から調劑していただいた坐薬を用ひ、洗滌には風呂場へイルリガートルを置いて硼酸水で洗滌しました。この方法が大へんよろしいやうでした。私たちの子供はまだ一人ですが、この子供は結婚早々

できたのですが、その後は一年たち一年半たつても幸ひと妊娠の様子もなく、ただ今はもう産後三年になります。妊娠の様もございません、たしかにあの方法がきいてゐるのだと信じてをります。これは少し手数はかかりますが、やはりそれだけ手をつくしてこそ効果があげられるのではないかと存じます。避妊の薬品は同じやうな調劑だと聞いてをりますから、さうでしたら、どの薬品でもよい譯と存じます。それからイルリガートルは風呂場へ備へておくのが一ばん都合よろしうございます。洗滌はよほど充分にしないといけませんから、それには風呂場などが第一でございます。

【一時効果のあつた中絶法で失敗した話】 私どもはいろ／＼研究しました。揚句、腔外××によつて避妊する方法をとつてをりました。それはちよつと困難ではございますが、手数もかからず道具も何もいらないのですから、ちよつと位の困難

はしのばなければならぬと思つて繼續してをりました。これは非常に効果がございます。かうして私どもは結婚して三年目まで一人も子供がございませんでした。三年目になつて、やうやく生活にもゆとりが出来ましたので、本當にお互ひの自由な意志によつて長男を設けましたのです。主人は、長男が一人あれば、これが四つ位になるまでは後は生まないのだといつてをりました。ところが長男が、やうやくお誕生すぎて少しづつ歩ける位になりました頃、私は急に妊娠の兆候をみたのです。私も主人も驚きました。それから私どもは二人目の女の子を生んでしまひました。今では、やはり妊娠器具か薬を使はなければ出来ないことと思つてをります。

【ピンを注意深く用ひて兎もかく成功した話】長男の十六を頭に五人の子供がございませ私、もうあと一年で四十です。四十にもなつて妊娠でもしたら、どう

しやうかと心配になつてまゐりました。しかし四十過ぎて妊娠する時の恐怖を感じながらも、ややもすると弱くなるお互ひの心を、どうすることもできませんでした。それから私たちは、ただ遠ざかることをしてゐても、とても及ばぬことと強く感じ、妊娠調節にはピンが一ばん確實であると知り、私は多産婦でありますので、説明書によつて「大」の方を取り寄せました。すると包装の中にピンと附屬器具と圖入りの長い説明書がありました用ひ方が、事ここかく書いてございしました。その説明書を再三熟讀し恐ろしく挿入してもらひました。もつとも初め挿入する時は大分手間取りましたが、しかし入つてみると別に痛みも何も感じませんでした。私はこれによつて幸ひ四十の恥かき子を孕まないでもすみさうでございます。もとよりできることなら、こんなことは早くやめたいと思つてをります。が、まだ女は四十五まではお役がすまないといふこと、ほんとうに初めは心配で

したが、幸ひやすくとできましたので安心いたし、當分これを使用しやうと思つてをります。

【氣分本位の自己流調節法の話】 僕ら夫婦は妊娠調節について面白い體驗をもつてゐます。それはその時々々の僕らの氣分によつて妊娠調節法を行ふのです。普通妊娠調節をなされた方々は、それ／＼信賴できる方法を選んで、それを唯一の方法とされるのであらうと思ひます。しかし僕らは必ずしも一つの方法を固守せず多くの方々の行はれてゐるであらういろいろの方法を、僕らのその時々々の氣分に應じて用ひるのです。たとへば今日はコンドームを用ひ、明日は薬品にしやうといふの例です。まことに非科學的ですが、とにかく僕らはこの方法をもつて今のところ確實な結果を收めてゐます。

しかし僕らが、この方法を用ひるには、妊娠調節に關する知識および各器具や

薬品などは充分用意してをります。これだけの知識と設備を根據にしたその時の感じから、その都度、この中から適宜な調節法をとるのです。たとへば、ある時はどうも排卵期の説から考へて、危い時だからコンドームを用ひようとか、またある時は今は大丈夫と思ふたら、事後、少し體操するとか咳をするとかしてあげばよいだらうといふやうにしてゐるのです。これによつて妊娠調節について廻る不満や何かを緩和することができます。確實であつても不満足であつては困るし満足できても不確實では困るわけです。

【タンポンで體內を害した話】 某産兒制限相談所から小さなバンフレットをとりよせました。それには妊娠調節のいろいろな方法が十幾種類でてゐました。しかし何か法律の六つかしい規則でもあつて充分説明出来ないのか、何れの方法も、はつきり解るやうに説明してありませんでした。たゞその中で、サックによるもの

と海綿を用ひるものだけが、手段が簡単ですので、よく解りました。そこで私も海綿を用ひることにいたしました。海綿は手立てが簡単ではあり、また費用もかかりませんし、それで初め一二回は大分具合がよくなりましたがたび／＼使つてゐるうちに、私の方に痛みを感じます、それを使はなければ子供が出来ると、それにはかへられないので、そのまま、こらへて用ひてをりました。さうしてゐるうちに私は、どうにも我慢が出来なくなりました。ある日などは直後一晩中、痛みを覚えて眠れませんでした。これでは仕方がない、何だか不安になつてきましたので一度、醫者にも見てもらひましたところ、臍内が大變な炎傷を起してゐるといふことで、びつくりいたしました。どうかしたかと聞かれても、海綿を入れたといふ譯にもゆかず、恥かしい思ひをしました。それはしばらく洗滌に通つて、なほりましたが、もう海綿を使ふのが何だか恐ろしくてなりません。そこ

でいろ／＼考へました末、初めから海綿を用ひず、一ばん最後にだけ海綿を用ひるやうにいたしました。これで、ともかく痛みは覺えずにすむやうになりました。これですめば大分よいと思つて、ずつと、それを續けてをりましたが、やはり避妊には確實な効果はなかつたのでした。私ども安心し切つてゐるうちに、はたと月経は閉止しました。やつぱり駄目だつたのかと後で悔いても仕方ない結果になつてゐるのでした。

【ピンが何んにもならなかつた私の體験】私も切りつめた生活ゆゑ、三人もの子供があつて、この上また私が身もちになつては體が續きませんので、思ひ切つて避妊ピンを用ひました。しかし私どもは運悪く、全然豫期した目的を達することができず、しかもそのために死にも狂ひの災難にあひ、漸く一命をとりとめました。初めピンを取りよせた時に、いくつもの説明書や廣告が入つてしまし

た。女學校の生理以上に皆目解らない知識をもつて、説明書と首引きで、やうやくそれを入れたのです。ビンの方は、それで、どうやら故障なく入つてをりました。二ヶ月ばかり経ちますうちに不思議にも月のものを見なくなり、どうやら妊娠らしい兆候を認めました。私どもは狼狽してしまひました。しかしただ狼狽してもをられませんので、主人に言つて、ともかく早くピンを取り出さうと思ひました。ところが、どうしたことせう、ピンをとり出さうとするとピンは影も形もないのださうです。初め入れたところを幾らさがしてもさつぱり解りません。あはてふために、先の醫師に、そのことを問合せますと、それは用法が悪かつたためだが、妊娠なら此方によい薬(三日分十圓)があるから、それを買へといつて來ました。泣つらに蜂で、私どもは何の思慮もなく、それをとりよせました。しかしそれを服んでしまつても何の効果もありません。またそのことを問合せる

と、それでは更に強く調劑するから更に三日分(十五圓)買へといつてきました。ただくあせつて、これをまた用ひましたが、やはり何の効果もありませんでした。私どもは初めて不良醫者と氣づいて口惜しくてなりません。たうく私は恥をしのんで町の専門醫のところへピンをとり出してもらひに參りました。

男の子、女の子を自由に産む方法

【夫婦の強弱をつくつて自由に男の子、女の子を生んだ話】男ができるか、女ができるか、これは神さまの秘事で、人間の力ではどうすることもできません。また、現在の醫學をもつてしましても、まだ自由自在に男の子を得、女の子を得る方法はありません。即ち學問上では、男の子、女の子を自由に生むことは不可能ですが、事實としては、自分の意志によつて、さういふ結果を得たことがあります。す。とにかく私としては、自分で男の子を生まうとして男の子を生み、女の子を生まうとして女の子を生みました。それでは、どうして男の子、女の子を自由に生んだかといふに、まづ強い男性と、弱い女性との間に生れる子は、女子であり反對に、弱い男性と、強い女性との間に生まれる子は男子であるといふ原則があ

ります。そこで、私の方法は、右の事實から考へて、男子が生れ、女子が生れるやうな状態、つまり親である男女の強弱を、人爲的に造るのです。たとへば、男子を得たいと思へば、女の方が強くなり、男の方が弱くなる状態を人爲的に造り女子を得たいとすれば、男の方が強く女の方が弱い状態を人爲的に造り出す。人爲的に造るといふのは日常の双方の健康および性の強弱などを、しかるべき状態に導くのであります。私には、六人の子がありますが、皆な適りました。知人の有りのままの結果を聞いてみますが、十中八分通りは、當つてゐます。元來、問題が微妙な問題ですから、八分までの事實があつたら、かなり信するに足ると思ひます。學者からは笑はれるかも知れませんが、研究してみると何かあるやうに思はれます。

【受胎の時間を見計つて男女を思ひのまゝに生んだ話】私は結婚して、初めて女

の子を生みました。そして、その次には男の子をほしいと主人も申し、私もほん
とに男の子を生みたいと思ひました。そして、どうしたら男の子が生れるか、何
かよい方法はないかと、人にも尋ねいろ／＼實行もしてみました。そのうち私は
二度目の妊娠をいたしました。こんどこそは男の子が生れてくれればよいと、ひ
そかに期待してをりました。ところが、今度も、生れて来たのは女でした。私は
すつかり失望して、お湯をつかはせにくる産婆さんにも、そんな話をいたしまし
た、すると、産婆さんが申しましたのです。産婆さんは、二十年もの長い経験を
もつてゐる人ですが、その間に、いろ／＼見聞した話に、正午から午後十二時ま
でに受胎した子は、女の子であり、午後十二時から正午までに受胎した子は、男
の子だと申すのでした。私は、よいことを聞いたと思ひ早速そのやうな注意を拂
つてみようと思ひました。ところが、私の親戚に、K大の醫科へ行つてゐるもの

がをりまして、恰度、私どもへ参りました時に、その話が出て、私たちも興味半
分に話しましたのです。と、彼れは、それはどうも醫者にも解らないが、いつ受胎
するといつても事實、受胎する時といふのは本當には調べようがないから困ると
いふのでした。男女關係があると同時に、直ちに受胎するものなら、極めて明瞭
ですけれども、事實は、決してそんなものではない、精子が女性の體內に入つて
も、それが卵子と結合するのは何分後であるか、何時間後であるかは、全く定ま
りがないのだから、そこが、どうも甚だ不明瞭だといふのでした。さう聞いてみ
ると、なるほど、いつ受胎させやうといつても、さう思ふ通りにはならない譯で
す。しかし、彼れの話も全然それが不可能だといふのではありませんでした。な
るほど、本當の受胎は、いつするか解らないけれども、大體、男を受胎する時間
が十二時間あり、女を受胎する時間が十二時間あるのですから、充分の注意を拂

へば、まづ、大てい豫定した時間に受胎するものなら受胎するだらうといふのでした。彼れの話は一面には、産婆から聞いた話を不確實にするやうでもありませんが、また一面には、よい参考になりました。私どもは、充分これを心得て、男の子を生むために注意をはらひました。私どもは、かうして、やうく三度目に男の子を得ましたのです、自分の経験からしまして、たしかに産婆から聞いた方法が當つたのだと信じてをります。人さまに話しますと、羨ましがつて、ぜひ教へてほしいとおつしやる方もあります。もつとも、中には、もう三人目にもなれば、ほつたらかしてをいても男の子が出てこやうぢやないか、などと笑つてゐらつしやる方もありますが。こればかりは、さうむやみに試験する譯にもまゐりません。一度御試しになるのもよいでせう。

【月経後の日による方法にて男女を思ひのまゝに産んだ話】 男の子や女の子を自

由に得る方法は、神さまでない限り、自由にできさうもない話ですが、私どもの村には、昔から一つの風習がひび傳へられてゐます。私どもも、娘の頃から、うすくは知つてをりましたが、はつきり聞いたのは、結婚してから、しばらくたつてからのことでした。私は、母から聞きましたのです。恰度、私が初めて長男を生んだ時でした。どちらでも、同じ習慣だらうと思ひますが、私も長男を生む時に、里方の方へ行つて生みました。私は、村内へ嫁いだのですが、やはり、里方の方でお産すれば二十一日までは、そのまま里方の方で體を日立たせることにいたしました。私は恰度、産後で實家にごろくしてをりました時です。私かまだ覺束ない手つきで赤坊にお乳などやつてをりますと、母も所在なさに、お茶など入れて来て、母子水入らずで呑氣に世間話など初めました。その時、母が申すのです「男の子でよかつた、XXさん(夫の名)も大喜びだから、總領が男、二番

目が女、これが一ばんいいところだけに今度は、女を生みなさいよ」私も母の話に合せながら、そんなことを申しました。すると、その話から、母が申しましたのは、月経が終つてからの日によつて、男が生れ、女が生れるかが定まるといふことでした。それは、月経がすんでから三日までに受胎すると女子が生れ、六日目以後に受胎すると、男が生れるといふのでした。私も、このことは、ちよつと聞いて知つてはをりました。しかし母から、はつきり聞き、またその母も、母の實母(母方の祖母)から聞いたなどといふことを聞きますと、さういふこともあるかしらと考へたのでした。それから、私どもは次の子供のために、心がけました。今度は、女の子がほしい、當る當らないはともかく、害になることではないからと、あの母から聞いたことについても注意して、生活してをりました。それから、三年目に二度目のお産をいたしました。理か、偶然か、女の子が生まれました。

私は、やはり、あれが當つたのだと思ひました。この一事實だけはたしかに効果があつたやうに思つてをります。

【胎教の原理を應用して男女を自由に生んだ話】私ども結婚生活を初める早々、子供を生むなら、まづ女の子をほしいと主人が申しますので、私も主人の望みに引かされ「ええ、ちや、可愛い女の子を生ませうね。エンゼルのやうな」そして私たちは、いつしか子供は、もう女の子を生むことにきめてしまつてをりました。結婚後三ヶ月目に、私は妊娠いたしました。すると、主人が「きつと女だよ」と申します「でもそんなことが解るものですか。こればかりは」すると、主人はまるで自分には解り切つてゐるといふやうに「いや、俺たちは、もうさう信じて疑はなかつたのだから、女が生れないといふことはない、あれだけの強い意志が何の作用もしないといふことはない」と申しますのです。私も、なにか、さうい

はれば、そんなこともありさうで、知らず／＼主人の言葉に引き入れられてしまひました。では、みめよい女の子が生れるやうにと、よい讀物や、きれいな美人畫などを額に入れたり、もう全く女の子のため、そのもののやうな胎教を心がけました。かうして、やがて私はお産いたしました。すると、生れました子供は不思議か、因縁か、本當に女の子だったのでございます。私も、張りつめた心の下から、お嬢ちゃんですと聞いた時、うれしいやら、びつくりいたしました。私もまだ一度の経験でございますが、両親の強い精神力によつて、宿る子供に作用することができるとは思ひません。こんなことは、學問で證明が立たないかも知れませんが、現に産婆さんは、かういふ事實を他で一度聞いたことがあるといつてゐました。胎教といふことが學問上あるとすれば、これもまた不思議ではないと思ひます。

(完)

9. 6. 20

昭和九年六月廿五日 印刷
昭和九年七月十五日 發行

定價壹圓

版權所有

編輯兼
發行人

眞 繼 義 太 郎
東京市神田區神保町三ノ十一

印刷人

角 田 憲 治
東京市神田區西神田一ノ四

東京市神田區(改正町名)神保町三丁目十一番地

發行所

興 風 書 院
電話九段三八一一番

(佛敎書籍、佛畫、佛像、佛具類
總目錄ハガキ御申込次第送呈)

（經謝引代）錄目書經版出社聞新教佛本日

佛前讀誦用折本（送料共）	神道大祓全	神前のりと正文	觀音經普門品	漢文和文般若心經	禪宗佛前經文集	悟りの教へ和讃集	眞言宗佛前經文集	光明眞言經	般若心經秘鍵	淨土宗佛前經文集	佛說阿彌陀經	日蓮宗佛前經文集	諸佛菩薩陀羅尼集	地藏菩薩本願經	藥師如來本願經	虛空藏菩薩滿願經	三寶大荒神	毘沙門天功德經	佛說妙見菩薩經	佛說愛染明王經	佛說聖天功密教經	佛說聖天功密教經
五十錢	五十錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢	十五錢
天台宗勤行式	般若理趣經	佛說三部經	白禪師坐禪和讃	高王白衣觀音經	十一面觀音經	佛說辨才天女品經	大聖歡喜天經	佛說摩利支天經	御嶽山肝要集	大黒天功徳集	佛說孟蘭盆經	西國觀音御詠歌	八十八箇所御詠歌	弘法大師お山開き	和譯善惡因果經	善惡因果經和讃	阪東秩父百番詠歌	廿八宿日割鑑	稻荷大明神のり	十三佛御詠歌	西院の河原和讃	荊萱石童丸和讃
金廿五錢	金壹圓	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢	金十錢
御詠歌一千題	和讃一千題	繪入踊り念佛和讃	白骨無常觀	親鸞上人琵琶外傳	日蓮上人龍口法難	苦行林壇特山	說教節迦毘羅衛城	孝行和讃子守歌	佛前讀誦用綴本（送料共）	眞宗在家勤行集	和譯阿彌陀經	漢和對照正信偈	眞宗秘經歎異抄	和譯觀音經普門品	和譯佛遺教經	曹洞教會修證義	和文意譯船若心經	和譯大悲心陀羅尼	不動尊秘密經	破地獄經文密集	親鸞聖人御傳繪抄	眷物九字呪文秘法
七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	七十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢	五十錢

終

